（品目別需給編）

1　小麦

（1）国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

＜USDA の見通し＞　　2024/25 年度

生産量　　**前年度比** ⇧　　**前月比** ⇩

・ウクライナ等で上方修正されたものの、ＥＵ、ロシア、インド等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

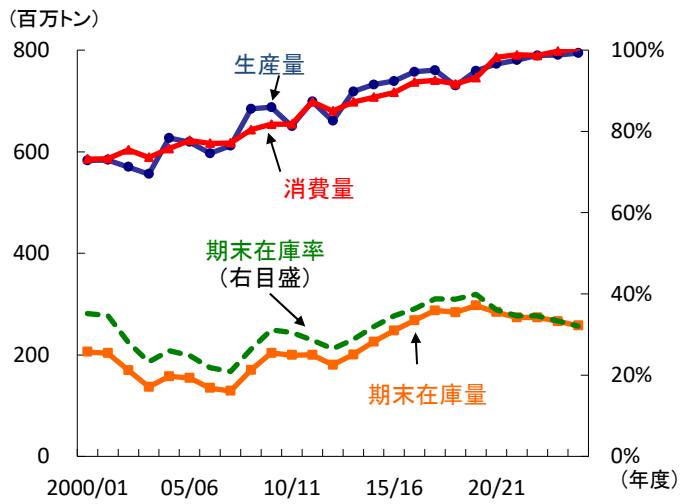
消費量　　**前年度比** ⇧　　**前月比** ⇩

・米国等で上方修正されたものの、インド、アフガニスタン等で下方修正され、前月から下方修正された。

輸出量　　**前年度比** ⇩　　**前月比** ⇩

・ウクライナ等で上方修正されたものの、ＥＵ等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量　　**前年度比** ⇩　　**前月比** ⇧



資料:USDA「PS&D」(2024.10.11) をもとに農林水産省にて作成

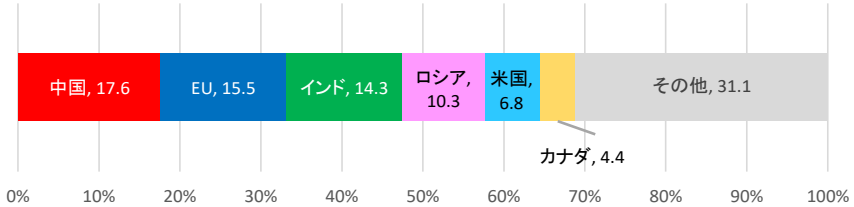
◎世界の小麦需給

（単位：百万トン）

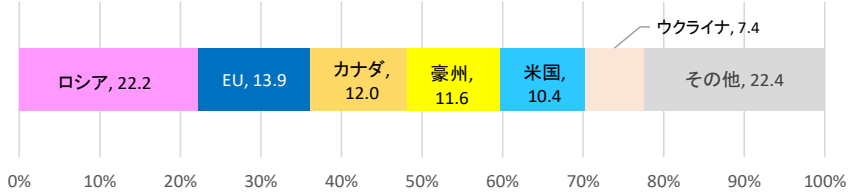
年　度	2022/23	2023/24（見込み）	2024/25 予測値	2024/25 前月予測からの変更	2024/25 対前年度増減率(%)
生　産　量	789.5	790.4	794.1	▲ 2.8	0.5
消　費　量	789.4	797.8	802.5	▲ 2.4	0.6
うち飼料用	152.7	158.5	151.8	▲ 0.1	▲ 4.3
輸　出　量	221.7	221.3	215.8	▲ 0.7	▲ 2.5
輸　入　量	213.1	221.8	210.8	0.5	▲ 5.0
期末在庫量	273.6	266.2	257.7	0.5	▲ 3.2
期末在庫率	34.7%	33.4%	32.1%	0.2	▲ 1.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (11 October 2024)

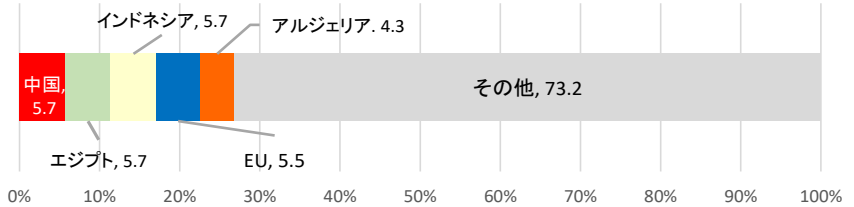
○　2024/25年度の世界の小麦の生産量(794.1百万トン)(単位：%)



○　2024/25年度の世界の小麦の輸出量(215.8百万トン)(単位：%)



○　2024/25年度の世界の小麦の輸入量(210.8百万トン)(単位：%)



（２）国別の小麦の需給動向

＜　米国　＞　2024/25 年度の生産量は前月から下方修正され 53.7 百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、単収の引下げを受け前月予測から 0.3 百万トン下方修正され 53.7 百万トンとなるものの、収穫面積及び単収が前年度より増加することから前年度と比べ 9.3%増、過去５年平均（48.2 百万トン）と比べても 11.4%増となる見込み。

品種別には、ハード・レッド・ウインター（HRW）が 21.0 百万トン（前年度比 29.3%増）、ハード・レッド・スプリング(HRS)が 13.7 百万トン（同 8.0%増）、ホワイト小麦（WW）が 7.5 百万トン（同 17.7%増）、デュラム小麦（Durum）が 2.2 百万トン（同 34.9%増）と、前年度と比べ増加する一方で、ソフト・レッド・ウインター（SRW）は前作物のとうもろこし及び大豆の収穫が遅れ作付面積が減少したこと等受け 9.3 百万トン（同 23.7%減）となる見込み。

同「Crop Progress」（2024.9.23 及び 10.15）によれば、2024/25 年度の春小麦の収穫進捗率は９月 22 日時点で 96%と収穫はほぼ終了している。2025/26 年度の冬小麦の作付進捗率は 10 月 13 日現在で 64%と前年同期 65%、過去５年平均 66%を下回っている。また、出芽進捗率も 35%と前年同期 36%、過去５年平均 38%を下回っている。

同「Wheat Outlook」（2024.10.16）によれば、10 月８日現在、2025/26 年度の冬小麦の作付地域の 47%が干ばつとなっているものの、前年同期 49%と比べれば減少しており、また干ばつの強さも前年同期に比べ弱くなっている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 22.5 百万トンと、増産による輸出余力の増加に加え、EU、ロシア及びウクライナの減産による輸出余力の減少等を受け、前年度と比べ 16.7%増と４年ぶりの高水準となるものの、過去５年平均（23.0 百万トン）比では 2.4%減となる見込み。

2024/25 年度のうち 2024 年６月～８月の輸出量は、586.3 万トンと前年同期比 37.6%増となっており、国別にはメキシコ 93.2 万トン（15.9%）、日本 66.2 万トン（11.3%）、フィリピン 58.9 万トン（10.0%）の順。

2024/25 年度の期末在庫量は、生産量の引下げ等を受け前月予測から 0.4 百万トン下方修正され 22.1 百万トンとなるものの、前年度と比べ 16.6%増加し４年ぶりの高水準となる見込み。

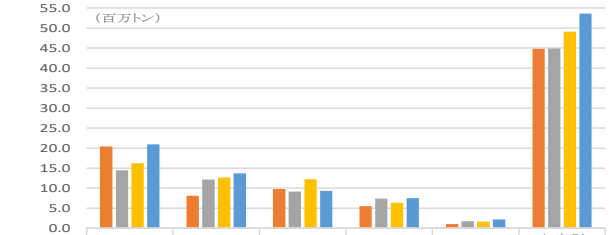
小麦－米国（冬小麦が全体の７割、春小麦は３割）

（単位：百万トン）

年　度	2022/23	2023/24（見込み）	2024/25（24年6月～25年5月） 予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生　産　量	44.9	49.1	53.7	▲ 0.3	9.3
消　費　量	30.3	30.2	31.2	0.3	3.4
うち飼料用	2.0	2.3	3.3	0.3	41.6
輸　出　量	20.7	19.2	22.5	-	16.7
輸　入　量	3.3	3.8	3.1	0.3	▲ 16.8
期末在庫量	15.5	19.0	22.1	▲ 0.4	16.6
期末在庫率	30.4%	38.4%	41.2%	▲ 1.0	2.8
（参考）					
収穫面積(百万ha)	14.36	15.01	15.57	0.22	3.7
単収(t/ha)	3.13	3.27	3.45	▲ 0.06	5.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(11 October 2024)

図 品種別生産量の推移



	HRW	HRS	SRW	WW	Durum	小麦計
2021/22	20.4	8.1	9.8	5.5	1.0	44.8
2022/23	14.5	12.2	9.1	7.4	1.7	44.9
2023/24	16.2	12.7	12.2	6.4	1.6	49.1
2024/25	21.0	13.7	9.3	7.5	2.2	53.7

資料：USDA「Wheat Data」(2024.10.15)をもとに農林水産省で作成

表 米国産小麦の輸出量と輸出先国

(輸出量：万トン、シェア：%)

2024/25年度（2024年6月～8月）			2023/24年度（2023年6月～2024年5月）			2022/23年度（2022年6月～2023年5月）		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
メキシコ	93.2	15.9	メキシコ	325.8	17.4	メキシコ	365.4	18.0
日本	66.2	11.3	フィリピン	274.5	14.7	フィリピン	206.1	10.2
フィリピン	58.9	10.0	中国	216.9	11.6	日本	204.1	10.1
韓国	52.5	9.0	日本	197.1	10.5	韓国	147.2	7.3
タイ	26.3	4.5	韓国	130.1	6.9	中国	120.6	6.0
台湾	24.3	4.1	台湾	110.5	5.9	ナイジェリア	81.9	4.0
その他	264.9	45.2	その他	618.1	33.0	その他	901.7	44.5
計	586.3	100.0	計	1,873.0	100.0	計	2,027.0	100.0

資料：USDA「Global Agricultural Trade System」をもとに農林水産省で作成

＜　カナダ　＞　2024/25 年度の輸出量は前年度比 0.3%増の 25.4 百万トンの見込み（AAFC）

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省（AAFC）「Outlook for Principal Field Crops」（2024.10.21）によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 34.3 百万トンと、干ばつの影響により減産となった前年度（32.9 百万トン）に比べ 4.1%増、過去５年平均（31.7 百万トン）と比べても 8.3%増となる見込み。種類別には、普通小麦は 28.3 百万トンと、前年度（28.9 百万トン）に比べ 2.1%減となるものの、過去５年平均（26.8 百万トン）と比べれば 5.6%増となる見込み。デュラム小麦は 6.0 百万トンと、前年度（4.1 百万トン）に比べ 47.6%増、過去５年平均（4.9 百万トン）と比べても 23.1%増となる見込み。

主要生産州の各州政府によれば、サスカチュワン州では、10 月 14 日現在、全ての小麦の収穫が完了している。アルバータ州では、10 月 15 日現在、冬小麦及びデュラム小麦の収穫は完了し、春小麦も収穫進捗率は 98.6%と収穫はほぼ完了している。マニトバ州では、10 月 15 日現在、冬小麦の収穫は完了し、春小麦も収穫進捗率は 99%と収穫はほぼ完了している。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され 25.4 百万トンと、前年度（25.3 百万トン）と比べ 0.3%増となる見込み。種類別には、普通小麦が前月予測から 0.1 百万トン上方修正され 20.6 百万トンとなるものの、前年度（21.8 百万トン）に比べ 5.4%減となる見込み。デュラム小麦は前月予測からの変更はなく 4.8 百万トンと、生産量の回復による輸出余力の増加等を受け、前年度（3.6 百万トン）に比べ 34.9%増となる見込み。デュラム小麦の輸出量は、欧州及び北アフリカからの旺盛な需要に牽引される一方、前年度に比べトルコ及びとロシアとの競合は減少する可能性がある。

カナダ穀物委員会（CGC）によれば、2024/25 年度のうち 2024 年８月の輸出量は、143.8 万トンと前年同期比 8.5%減。種類別には、普通小麦が前年同期比 11.5%減の 123.8 万トンで、国別にはインドネシア 15.9 万トン（12.9%）、ペルー15.3 万トン（12.4%）、コロンビア 12.7 万トン（10.3%）の順。デュラム小麦は前年同期比 15.3%増の 20.1 万トンで、国別にはモロッコ 7.3 万トン（36.2%）、日本 2.9 万トン（14.3%）、米国 2.5 万トン（12.2%）の順。

AAFC によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、消費量の引上げ等を受け前月予測から 0.2 百万トン下方修正され 4.9 百万トンとなるものの、前年度（4.6 百万トン）に比べ 6.2%増となる見込み。

小麦－カナダ（春小麦を主に栽培）

（単位：百万トン）

年　度	2022/23	2023/24（見込み）	2024/25（24年8月～25年7月） 予測値、（ ）はAAFC		前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生　産　量	34.8	33.0	35.0	(34.3)	－	6.2
消　費　量	8.3	9.1	9.6	(8.7)	－	5.4
うち飼料用	3.2	4.0	4.5	(4.4)	－	12.2
輸　出　量	25.6	25.4	26.0	(25.4)	－	2.2
輸　入　量	0.6	0.6	0.6	(0.1)	－	▲ 1.8
期末在庫量	5.6	4.6	4.5	(4.9)	－	▲ 1.1
期末在庫率	16.6%	13.3%	12.7%	(14.4%)	－	▲ 0.5
（参考）						
収穫面積(百万ha)	10.10	10.70	10.60	(10.53)	－	▲ 0.9
単収(t/ha)	3.45	3.08	3.30	(3.26)	－	7.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 October 2024)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(21 October 2024)

表 カナダ産小麦の輸出量と輸出先国

○普通小麦　（輸出量:万トン）

2024/25年度（2024.8）			2023/24年度（2023.8～2024.7）			2022/23年度（2022.8～2023.7）		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
インドネシア	15.9	12.9%	中国	310.3	14.7%	中国	296.8	15.1%
ペルー	15.3	12.4%	インドネシア	251.9	11.9%	インドネシア	213.8	10.9%
コロンビア	12.7	10.3%	日本	173.9	8.2%	日本	167.3	8.5%
ベトナム	11.3	9.1%	バングラデシュ	172.7	8.2%	ペルー	148.3	7.5%
日本	9.7	7.8%	ペルー	137.3	6.5%	バングラデシュ	144.4	7.3%
その他	58.9	47.6%	その他	1,069.2	50.5%	その他	996.1	50.7%
計	123.8	100.0%	計	2,115.3	100.0%	計	1,966.6	100.0%

○デュラム小麦　（輸出量:万トン）

2024/25年度（2024.8）			2023/24年度（2023.8～2024.7）			2022/23年度（2022.8～2023.7）		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
モロッコ	7.3	36.2%	アルジェリア	89.3	26.0%	イタリア	121.0	23.8%
日本	2.9	14.3%	モロッコ	81.7	23.8%	アルジェリア	120.8	23.8%
米国	2.5	12.2%	米国	46.2	13.5%	モロッコ	85.7	16.9%
アラブ首長国連邦	2.4	12.1%	イタリア	44.7	13.0%	米国	50.4	9.9%
ペルー	1.2	5.9%	日本	21.2	6.2%	チュニジア	32.5	6.4%
その他	3.9	19.3%	その他	60.4	17.6%	その他	96.8	19.1%
計	20.1	100.0%	計	343.5	100.0%	計	507.3	100.0%

資料：カナダ穀物委員会のデータをもとに農林水産省で作成

＜　豪州　＞　霜害により NSW 州、VIC 州及び SA 州で生産量が下方修正の可能性

【生育・生産状況】豪州農業資源経済科学局（ABARES）「Australian Crop Report」（2024.9.3）によれば、2024/25 年度の生産量は、エルニーニョ現象の影響による降雨不足のために土壌水分不足だった前年度から収穫面積及び単収が増加（収穫面積は前年度比 5.2%増、単収は同 16.6%増）すること受け 31.8 百万トンと、前年度（26.0 百万トン）と比べ 22.6%増、過去５年平均（29.8 百万トン）と比べても 6.7%増となる見込み。

州別の生産量は、ウエスタンオーストラリア州（WA 州）が 10.4 百万トン（前年度比 35.1%増）、ニューサウスウエールズ州（NSW 州）が 11.0 百万トン（同 55.0%増）、クイーンズランド州（QLD 州）が 2.1 百万トン（同 94.4%増）と、降雨に恵まれたことから前年度に比べ増加する一方、サウスオーストラリア州（SA 州）が 4.3 百万トン（同 10.4%減）、ビクトリア州（VIC 州）が 4.0 百万トン（同 23.6%減）と、乾燥が続いていることから前年度に比べ減少する見込み。

西豪州穀物産業協会（GIWA）「Crop Report」（2024.10.18）によれば、WA 州の 2024/25 年度の生産量は、９月に入り降雨量が不足していたものの、９月下旬から 10 月上旬の降雨が生育の遅れていた小麦に好影響を与えたことから、前月予測から 0.61 百万トン上方修正され 9.91 百万トンとなる見込み。

報道によれば、９月に入り豪州全体で乾燥した天候が続いたことや、NSW 州、SA 州及び VIC 州の広範囲に霜が降りたことから、生産量が下方修正の可能性がある。

【貿易情報・その他】ABARES によれば、2024/25 年度の輸出量は 21.8 百万トンと、増産を受け前年度（19.8 百万トン）と比べ 10.0%増となるものの、過去５年平均（22.4 百万トン）と比べると 2.7%減となる見込み。

USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、25.0 百万トンと、前年度と比べ 25.0%増、過去５年平均（22.4 百万トン）と比べても 11.4%増となる見込み。

ABARES によれば、2023/24 年度のうち 2023 年 10 月～2024 年８月までの輸出量は 1,871.6 万トンと、乾燥により生産量が減少したことから前年同期（3,030.6 万トン）に比べ 38.2%減少している。国別には、中国 375.0 万トン（20.0%）、インドネシア 307.5 万トン（16.4%）、フィリピン 219.0 万トン（11.7%）の順となっており、前年同期と同様に中国のシェアが高くなっている。

2024/25 年度の期末在庫量は、4.1 百万トンと、前年度（2.8 百万トン）に比べ 47.8%増となる見込み。

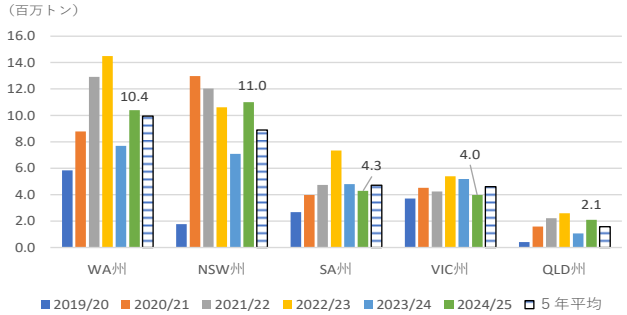
小麦ー豪州（冬小麦を主に栽培）

（単位：百万トン）

年　度	2022/23	2023/24（見込み）	2024/25（24年10年～25年9月）			
			予測値、（ ）はABARES		前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生　産　量	40.6	26.0	32.0	(31.8)	－	23.3
消　費　量	8.0	7.5	7.5	(8.7)	－	－
うち飼料用	4.5	4.0	4.0	…	－	－
輸　出　量	31.8	20.0	25.0	(21.8)	－	25.0
輸　入　量	0.2	0.2	0.2	…	－	▲ 9.1
期末在庫量	4.4	3.1	2.8	(4.1)	－	▲ 9.8
期末在庫率	11.0%	11.1%	8.5%	(13.5%)	－	▲ 2.6
（参考）						
収穫面積(百万ha)	13.05	12.37	13.00	(13.01)	－	5.1
単収(t/ha)	3.11	2.10	2.46	(2.45)	－	17.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、「World Agricultural Production」(11 October 2024)
ABARES「Australian Crop Report」(3 September 2024)

図　豪州の小麦の州別生産量の推移



資料：ABARES「Australian Crop Report」（2024.9.3）をもとに農林水産省で作成

表　豪州産小麦の輸出量と輸出先国

（輸出量:万トン、シェア:%）

2023/24年度（2023年10月～2024年8月）			2022/23年度（2022年10月～2023年8月）			2022/23年度（2022年10月～2023年9月）		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
中国	375.0	20.0	中国	735.8	24.3	中国	759.2	23.9
インドネシア	307.5	16.4	インドネシア	488.9	16.1	インドネシア	502.9	15.8
フィリピン	219.0	11.7	フィリピン	281.3	9.3	フィリピン	307.6	9.7
イエメン	152.4	8.1	ベトナム	274.4	9.1	ベトナム	285.5	9.0
韓国	115.0	6.1	韓国	259.7	8.6	韓国	270.0	8.5
日本	112.5	6.0	タイ	193.1	6.4	タイ	199.2	6.3
その他	590.2	31.5	その他	797.6	26.3	その他	855.7	26.9
計	1,871.6	100.0	計	3,030.6	100.0	計	3,180.0	100.0

資料: ABARES「Trade dashboard」をもとに農林水産省で作成

＜　ＥＵ２７　＞　2024/25 年度の生産量は前月から下方修正され 121.8 百万トンの見込み（EC）

【生育・生産状況】欧州委員会（EC）「EU Cereals Balance Sheets」（2024.9.27）によれば、2024/25 年度の生産量は、ドイツ等で生産量が下方修正されたことを受け、前月予測から 1.2 百万トン下方修正され 121.8 百万トンとなる見込み。2023 年秋の多雨で冬小麦の作付けが困難となったほか、生育期間を通じた降雨過多等により収穫面積及び単収が減少することを受け、前年度（132.5 百万トン）比 8.1%減、過去５年平均（133.4 百万トン）と比べても 8.7%減。このうち、普通小麦は前月予測から 1.5 百万トン下方修正され 114.6 百万トンと、前年度比 8.7%減、過去５年平均比でも 9.0%減となる見込み。国別にはフランスが降雨過多等を受け同 24.3%減の 26.3 百万トン、ドイツも同 13.3%減の 18.3 百万トンとなる見込み。デュラム小麦は前月予測から 0.3 百万トン上方修正され 7.2 百万トンと、前年度比 2.7%増となるものの、過去５年平均比では 3.8%減となる見込み。国別にはスペインが干ばつからの回復により前年度比 61.9%増の 0.7 百万トンとなる一方、イタリアが乾燥により同 5.1%減の 3.5 百万トンとなる見込み。

USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、収穫面積及び単収の引下げを受け前月予測から 1.0 百万トン下方修正され 123.0 百万トンと、前年度と比べ 8.8%減、過去５年平均（134.6 百万トン）と比べても 8.6%減となる見込み。同「Wheat Outlook」（2024.10.16）によれば、EU の生産量の下方修正はフランス、ベルギー等の生産量減少によるもので、欧州北西部の過剰な降雨と日照不足は生産量と品質に大きな影響を与えている。

【貿易情報・その他】EC によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からわずかに上方修正され 26.7 百万トンとなるものの、減産を受け前年度（36.3 百万トン）比 26.5%減となる見込み。2024/25 年度のうち 2024 年７月の輸出量は、287.3 万トンと、前年同期比 10.6%減。種類別には、普通小麦が 281.6 万トンと、前年度比 11.7%減となる一方、デュラム小麦が 5.7 万トンと、同 117.5%増。

2024/25 年度の輸入量は、ウクライナの生産量の引上げ等を受け前月予測から 1.0 百万トン上方修正され 10.0 百万トンとなるものの、ウクライナの減産で同国からの輸入が減少すること等から前年度（12.1 百万トン）比 17.2%減となる見込み。2024/25 年度のうち 2024 年７月の輸入量は、72.2 万トンと、域内における減産等を受け前年同期比 24.6%増。種類別には、普通小麦が 62.9 万トンと、前年度比 37.1%増となる一方、デュラム小麦が 9.3 万トンと、同 23.0%減。

2024/25 年度の期末在庫量は、減産等を受け前月予測から 0.5 百万トン下方修正され 12.5 百万トンと、供給量の減少から前年度（17.9 百万トン）と比べ 30.2%減となる見込み。

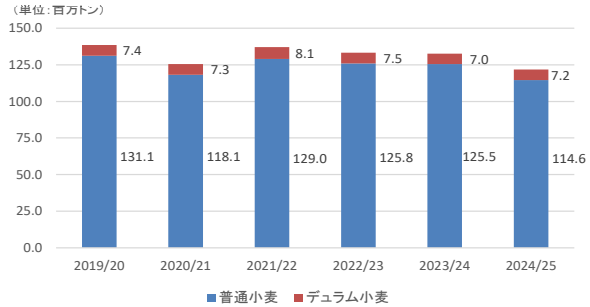
小麦－ＥＵ27（冬小麦を主に栽培）

（単位：百万トン）

年　度	2022/23	2023/24（見込み）	2024/25（24年7月～25年6月）予測値、（ ）はEC		前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生　産　量	134.3	134.9	123.0	(121.8)	▲ 1.0	▲ 8.8
消　費　量	109.0	111.0	108.8	(110.5)	-	▲ 2.0
うち飼料用	45.0	46.5	44.5	(45.6)	-	▲ 4.3
輸　出　量	35.1	37.9	30.0	(26.7)	▲ 1.5	▲ 20.8
輸　入　量	12.2	12.6	11.5	(10.0)	-	▲ 8.9
期末在庫量	16.0	14.7	10.4	(12.5)	0.5	▲ 29.0
期末在庫率	11.1%	9.8%	7.5%	(9.1%)	0.4	▲ 2.3
（参考）						
収穫面積(百万ha)	24.40	24.31	22.90	(22.55)	▲ 0.10	▲ 5.8
単収(t/ha)	5.50	5.55	5.37	(5.40)	▲ 0.02	▲ 3.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、「World Agricultural Production」(11 October 2024)
EC 「EU Cereals Balance Sheets」(27 September 2024)

図 ＥＵ27 の小麦生産量の推移



資料：EC「EU cereals production ,area and yield」(2024.9.27)をもとに農林水産省で作成

図 ＥＵ27 の小麦の輸出量及び輸入量

○輸出量

国名	2024/25年度(2024.7) 輸出量(万トン)	シェア(%)	2023/24年度(2023.7～2024.6) 輸出量(万トン)	シェア(%)
モロッコ	42.4	14.7%	489.1	13.5%
エジプト	40.1	13.9%	175.0	4.8%
ナイジェリア	28.8	10.0%	348.9	9.6%
アルジェリア	18.7	6.5%	393.7	10.8%
サウジアラビア	17.5	6.1%	155.4	4.3%
タイ	13.4	4.7%	107.6	3.0%
その他	126.4	44.0%	1,964.1	54.1%
合計	287.3	100.0%	3,633.7	100.0%

○輸入量

国名	2024/25年度(2024.7) 輸入量(万トン)	シェア(%)	2023/24年度(2023.7～2024.6) 輸入量(万トン)	シェア(%)
ウクライナ	36.3	50.2%	647.4	53.6%
カナダ	12.3	17.0%	138.5	11.5%
モルドバ	8.2	11.4%	73.6	6.1%
トルコ	5.6	7.7%	76.8	6.4%
英国	3.6	5.0%	51.9	4.3%
セルビア	2.6	3.6%	35.5	2.9%
その他	3.7	5.1%	185.2	15.3%
合計	72.2	100.0%	1,208.9	100.0%

資料：EC「EU trade for cereals」(2024.9.27)をもとに農林水産省で作成

＜　ロシア　＞　2024/25 年度の生産量は前月から下方修正され 82.0 百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量（クリミア地域分を含まず）は、単収の引下げを受け前月予測から 1.0 百万トン下方修正され 82.0 百万トンと、前年度と比べ 10.4%減、過去５年平均（83.5 百万トン）と比べても 1.8%減となる見込み。種類別には、冬小麦が前月予測からの変更はなく 57.5 百万トンと、５月の霜害とそれに続く高温乾燥により前年度（64.0 百万トン）に比べ 10.2%減。春小麦が単収の引下げを受け前月予測から 1.0 百万トン下方修正され 24.5 百万トンと、霜害と高温乾燥により前年度（27.5 百万トン）に比べ 10.9%減となる見込み。

ロシア農業省によれば、10 月 11 日現在、2024/25 年度の小麦（冬小麦及び春小麦）の収穫進捗率は 95%と前年同期 94%を上回り、8,234 万トンが収穫されている。また、2025/26 年度の冬小麦の作付けが始まっており、1,342 万ヘクタールで作付け（前年同期 1,409 万ヘクタール）され、作付進捗率は 74%と乾燥により作付けが遅れている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 48.0 百万トンと、史上最高となった前年度に比べ 13.5%減となるものの、過去５年平均（42.4 百万トン）に比べれば 13.2%増となる見込み。現地情報会社によれば、2024/25 年度のうち 2024 年７月～９月の輸出量は 1,418.3 万トンと、前年同期 1,484.0 万トンに比べ 4.4%減となっている。国別には、エジプト 261.2 万トン（18.4%）、アルジェリア 100.9 万トン（7.1%）、トルコ 94.4 万トン（6.7%）、バングラデシュ 84.3 万トン（5.9%）、ケニア 69.1 万トン（4.9%）の順。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2024.10.11）によれば、ロシア産は EU 産に比べ価格競争力があり、また、2024/25 年度の EU の生産量は前年度に比べ９%減少すると推定され、特に EU の主要輸出国のフランスでは生産量と品質が大幅に低下した。これにより、ロシアの７月～９月の輸出は、減産で輸出余力が減少しているにもかかわらず、EU の主要な輸出市場であるアジア、中東、アフリカでシェアを拡大している。現地情報会社の情報によれば、10 月 15 日、ロシア穀物同盟は小麦の輸出価格の参考価格を発表した。参考価格は適正な輸出価格の指標となるものであり、ロシア農業省と同盟が合意の上で決定され、今後も定期的に公表される予定。同盟の加盟企業は参考価格に従う義務はないものの、今後、輸出価格は上昇し輸出が鈍化する可能性がある。USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、期首在庫量の引上げ等を受け前月予測から 0.5 百万トン上方修正され 7.2 百万トンとなるものの、前年度に比べ 38.1%減となる見込み。

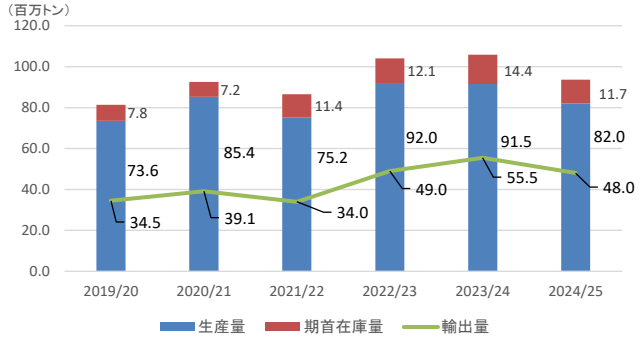
小麦－ロシア（主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培）

（単位：百万トン）

年　度	2022/23	2023/24（見込み）	2024/25（24年7月～25年6月） 予測値、（　）はIGC		前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生　産　量	92.0	91.5	82.0	(81.8)	▲ 1.0	▲ 10.4
消　費　量	41.0	39.0	38.8	(39.0)	－	▲ 0.6
うち飼料用	18.0	16.0	16.0	(16.0)	－	－
輸　出　量	49.0	55.5	48.0	(43.7)	－	▲ 13.5
輸　入　量	0.3	0.3	0.3	(0.1)	－	－
期末在庫量	14.4	11.7	7.2	(9.0)	0.5	▲ 38.1
期末在庫率	16.0%	12.4%	8.3%	(10.9%)	0.6	▲ 4.0
（参考）						
収穫面積（百万ha）	29.00	28.83	28.00	(27.73)	－	▲ 2.9
単収（t/ha）	3.17	3.17	2.93	(2.95)	▲ 0.03	▲ 7.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（11 October 2024）
IGC 「Grain Market Report」（19 September 2024）

図　ロシアの小麦の期首在庫量・生産量・輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」（2024.10.11）をもとに農林水産省で作成

表　ロシア産小麦の輸出量と輸出先国

（輸出量：万トン、シェア：%）

2024/25年度（2024年9月）			2024/25年度（2024年7月～9月）			2023/24年度（2023年7月～2024年6月）		
国　名	輸出量	シェア	国　名	輸出量	シェア	国　名	輸出量	シェア
エジプト	121.1	22.8	エジプト	261.2	18.4	エジプト	868.3	16.0
アルジェリア	44.8	8.4	アルジェリア	100.9	7.1	トルコ	691.9	12.8
トルコ	29.7	5.6	トルコ	94.4	6.7	バングラデシュ	350.2	6.5
イラン	27.3	5.1	バングラデシュ	84.3	5.9	アルジェリア	236.8	4.4
ケニア	23.8	4.5	ケニア	69.1	4.9	サウジアラビア	224.8	4.2
バングラデシュ	16.6	3.1	サウジアラビア	57.0	4.0	カザフスタン	222.2	4.1
アゼルバイジャン	16.2	3.1	イスラエル	49.2	3.5	パキスタン	213.0	3.9
その他	251.1	47.3	その他	702.2	49.5	その他	2,602.8	48.1
計	530.6	100.0	計	1,418.3	100.0	計	5,410.0	100.0

資料：現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

＜ウクライナ＞　2024/25 年度の生産量は前月から上方修正され 22.9 百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25年度の生産量（クリミア地域分を含む）は、単収の引上げを受け前月予測から0.6百万トン上方修正され22.9百万トンとなるものの、３月以降、降水量が平年を下回り乾燥が続いた影響により前年度に比べ0.4%減、ロシアのウクライナ侵攻前の過去５年平均（2017/18～2021/22年度、27.9百万トン）と比べても18.0%減となる見込み。

ウクライナ農業政策食料省によれば、2024/25年度の冬小麦及び春小麦の収穫は完了しており、生産量は2,232.7万トンとなる見込み。また、10月14日現在の2025/26年度の冬小麦の作付進捗率は75%と、前年同期69%を上回っているものの、現地情報会社の９月末時点の情報によれば、東部及び南部の一部を除く多くの地域では、乾燥により作付け後、長期間にわたって発芽が見られないケースがあり、降雨が必要となっている。

【貿易状況・その他】USDA によれば、2024/25年度の輸出量は、生産量の上方修正による輸出余力の増加等を受け前月予測から1.0百万トン上方修正され16.0百万トンとなるものの、生産量の減少等により前年度と比べ13.9%減、ロシアのウクライナ侵攻前の過去５年平均（18.1百万トン）と比べても11.6%減となる見込み。

現地情報会社によれば、８月20日、ウクライナ政府は小麦等の適正な輸出を確保するため最低輸出価格の承認に関する決議を採択した。最低輸出価格は毎月10日までに承認・公表され、当該価格に対し最大10%の減まで（最低輸出価格の90%以上の価格は輸出可能）認められる。また、９月３日、ウクライナ農業政策食料省は穀物市場関係者と覚書の付属書を締結し、2024/25年度の小麦の輸出上限は1,620万トンに設定された。

2024/25年度のうち2024年７月～９月の輸出量は609.8万トンと、2023年７月のロシアの黒海穀物イニシアティブ離脱を受け輸出量が減少していたことや2024/25年産の収穫が平年よりも早かったことを受け、前年同期（333.7万トン）に比べ82.7%増。国別にはスペイン144.5万トン（23.7%）、インドネシア99.6万トン（16.3%）、ベトナム63.8万トン（10.5%）の順で、昨年度同様スペインが首位である一方、インドネシア、ベトナム、タイといったアジア諸国のシェアが増加している。

USDAによれば、2024/25年度の期末在庫量は、期首在庫量の下方修正等を受け前月予測から0.1百万トン下方修正され1.0百万トンと、前年度に比べ39.4%増となるものの、史上３番目に低い水準となる見込み。

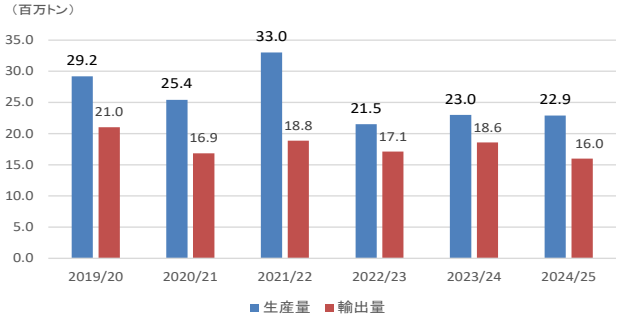
小麦－ウクライナ（主に冬小麦を栽培）

（単位：百万トン）

年　度	2022/23	2023/24（見込み）	2024/25（24年7月～25年6月） 予測値、（ ）はIGC		前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生　産　量	21.5	23.0	22.9	(25.4)	0.6	▲ 0.4
消　費　量	7.8	6.7	6.7	(9.4)	▲ 0.3	－
うち飼料用	3.0	2.0	2.0	(1.4)	▲ 0.2	－
輸　出　量	17.1	18.6	16.0	(16.2)	1.0	▲ 13.9
輸　入　量	0.1	0.1	0.1	(0.1)	－	33.3
期末在庫量	2.9	0.7	1.0	(0.7)	▲ 0.1	39.4
期末在庫率	11.8%	2.8%	4.4%	(2.6%)	▲ 0.6	1.6
（参考）						
収穫面積(百万ha)	5.60	5.01	5.20	(6.17)	－	3.8
単収(t/ha)	3.84	4.59	4.40	(4.11)	0.11	▲ 4.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、「World Agricultural Production」(11 October 2024)
IGC 「Grain Market Report」(19 September 2024)

図　ウクライナの小麦の生産量・輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」(2024.10.11)をもとに農林水産省で作成

表　ウクライナ産小麦の輸出量と輸出先国

（輸出量：万トン、シェア：%）

2024/25年度（2024年9月）			2024/25年度（2024年7月～9月）			2023/24年度（2023年7月～2024年6月）		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
スペイン	67.0	28.9	スペイン	144.5	23.7	スペイン	589.9	32.0
インドネシア	39.0	16.8	インドネシア	99.6	16.3	エジプト	172.1	9.4
タイ	27.8	12.0	ベトナム	63.8	10.5	インドネシア	151.5	8.2
ベトナム	26.0	11.2	エジプト	46.8	7.7	トルコ	107.8	5.9
イタリア	12.5	5.4	タイ	44.0	7.2	ルーマニア	100.1	5.4
エジプト	10.7	4.6	アルジェリア	40.2	6.6	パキスタン	81.4	4.4
チュニジア	9.0	3.9	イタリア	23.9	3.9	ベトナム	75.1	4.1
オランダ	5.6	2.4	チュニジア	22.1	3.6	バングラデシュ	73.7	4.0
イエメン	5.4	2.3	イエメン	22.0	3.6	イタリア	67.7	3.7
バングラデシュ	5.4	2.3	バングラデシュ	16.6	2.7	アルジェリア	63.3	3.4
その他	23.1	10.0	その他	86.2	14.1	その他	358.0	19.5
合計	231.5	100.0	合計	609.8	100.0	合計	1,840.6	100.0

資料：APK-Inform Agency のデータをもとに農林水産省で作成

＜　中国　＞　2024 年７月～８月の輸入量は前年同期比 21.6%減

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 140.0 百万トンと、前年度と比べ 2.5%増、過去５年平均（135.8 百万トン）と比べても 3.1%増となり史上最高となる見込み。

中国国家統計局によれば、2024/25 年度の冬小麦の作付面積は 23.09 百万ヘクタールと、前年度に比べ 0.1%増（3.2 万ヘクタール増）となる見込み。単収は 5.99 トン/ヘクタールと、前年度と比べ 2.6%増。生産量は 138.2 百万トンと、前年度と比べ 2.7%増となる見込み。

中国国家気象センター「中国気象農業頻道」(2024.10.14）によれば、2025/26 年度の冬小麦の作付けが始まっており、作付進捗率は、山東省 30%以上、河南省 15%以上、安徽省 10%未満、江蘇省約４%、河北省は作付けが始まったところである。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく 151.0 百万トンと、経済成長による食生活の変化に伴い小麦粉需要が増加する一方、2023/24 年度に飼料用グレード国産小麦が増加していたものが減少し飼料用消費量が減少することから、前年度と比べ 1.6%減となるものの、過去５年平均（146.1 百万トン）と比べれば 3.4%増となる見込み。

2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく 12.0 百万トンと、史上最高の生産量となり国内需給が緩和することから、前年度に比べ 12.0%減となる見込み。

中国海関統計によれば、2024/25 年度のうち 2024 年７月～８月までの輸入量は 121.2 万トンと、増産を受け前年同期（154.6 万トン）に比べ 21.6%減となっている。国別には、米国 38.0 万トン（31.4%）、カナダ 37.1 万トン（30.7%）、豪州 17.8 万トン（14.7%）の順となっており、豪州が 2023/24 年度の減産に伴う豪州産の相対的な価格競争力の低下等を受け前年同期の 62.1%から 14.7%と大きくシェアを減らしている一方で、米国及びロシアが大きくシェアを伸ばしている。中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2024 年９月号」によれば、８月の小麦輸入量は約 41 万トンと、増産により市場に十分な供給があったことや小麦粉の需要も低調であったことに加え、８月は華北及び黄淮（こうわい）地区（河北省、山東省、河南省、安徽省、江蘇省）で高温と降雨が続き、小麦の貯蔵が難しくなり出荷量を増加させたこともあり、前月に比べ 49%減となった。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく 134.5 百万トンと、前年度並みとなる見込み。

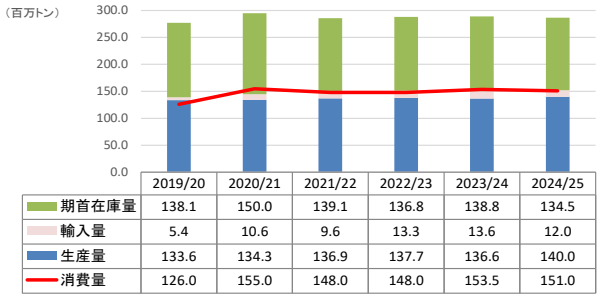
小麦－中国（冬小麦を主に栽培）

（単位：百万トン）

年　度	2022/23	2023/24（見込み）	2024/25（24年7月～25年6月） 予測値、（ ）はIGC		前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生　産　量	137.7	136.6	140.0	(140.0)	－	2.5
消　費　量	148.0	153.5	151.0	(146.8)	－	▲ 1.6
うち飼料用	33.0	37.0	33.0	(28.0)	－	▲ 10.8
輸　出　量	1.0	1.0	1.0	(1.2)	－	▲ 3.8
輸　入　量	13.3	13.6	12.0	(10.7)	－	▲ 12.0
期末在庫量	138.8	134.5	134.5	(142.9)	－	－
期末在庫率	93.2%	87.0%	88.5%	(96.6%)	－	1.5
（参考）						
収穫面積(百万ha)	23.52	23.63	23.70	(23.65)	－	0.3
単収(t/ha)	5.86	5.78	5.91	(5.92)	－	2.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、「World Agricultural Production」(11 October 2024)
IGC 「Grain Market Report」(19 September 2024)

図　中国の小麦の供給量と消費量の推移



資料：USDA「PS&D」(2024.10.11)をもとに農林水産省で作成

表　中国の小麦輸入量と輸入先国

（輸入量：万トン、シェア：%）

国　名	2024/25年度（2024年7月～8月） 輸入量	シェア	2023/24年度（2023年7月～8月） 輸入量	シェア	2023/24年度（2023年7月～2024年6月） 輸入量	シェア
米国	38.0	31.4	0.6	0.4	181.8	13.6
カナダ	37.1	30.7	35.1	22.7	307.8	23.0
豪州	17.8	14.7	96.0	62.1	503.5	37.7
カザフスタン	14.5	11.9	18.1	11.7	66.8	5.0
ロシア	12.7	10.5	4.1	2.7	43.0	3.2
日本	0.7	0.6	0.5	0.3	3.3	0.2
フランス	0.3	0.2	0.1	0.1	230.1	17.2
その他	0.1	0.0	0.1	0.1	0.6	0.0
計	121.2	100.0	154.6	100.0	1,336.7	100.0

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

2　とうもろこし

（１）国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

＜USDA の見通し＞　　2024/25 年度

生産量　　**前年度比** ⇩　**前月比** ⇩

・インド、米国等で上方修正されたものの、ウクライナ、エジプト、ロシア等で下方修正され、前月から下方修正された。

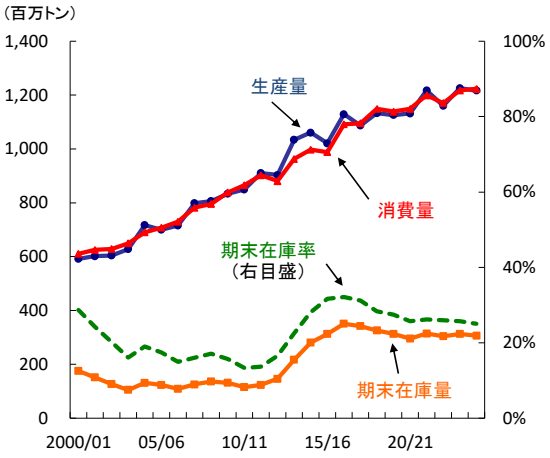
消費量　　**前年度比** ⇧　**前月比** ⇧

・イラン等で下方修正されたものの、アルゼンチン、ブラジル、インド等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量　　**前年度比** ⇩　**前月比** ⇩

・米国等で上方修正されたものの、ウクライナ、ロシアで下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量　　**前年度比** ⇩　**前月比** ⇩



資料：USDA「PS&D」(2024.10.11)をもとに農林水産省にて作成。

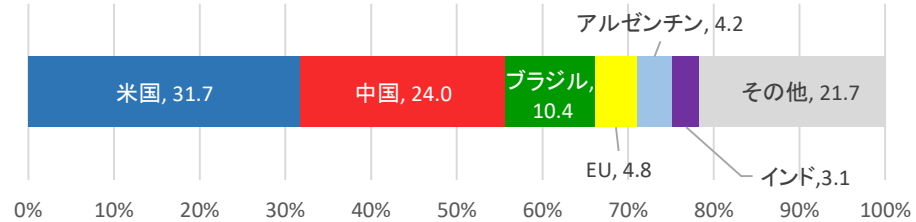
◎世界のとうもろこし需給

（単位：百万トン）

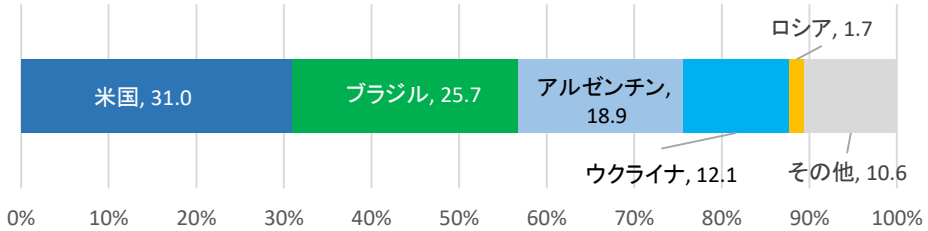
年　度	2022/23	2023/24（見込み）	2024/25 予測値	2024/25 前月予測からの変更	2024/25 対前年度増減率(%)
生　産　量	1,160.7	1,225.9	1,217.2	▲ 1.4	▲ 0.7
消　費　量	1,170.5	1,217.4	1,223.3	3.5	0.5
うち飼料用	734.5	770.2	774.3	2.1	0.5
輸　出　量	180.2	195.8	190.5	▲ 0.9	▲ 2.7
輸　入　量	173.4	192.8	183.8	▲ 1.6	▲ 4.7
期末在庫量	304.1	312.7	306.5	▲ 1.8	▲ 2.0
期末在庫率	26.0%	25.7%	25.1%	▲ 0.2	▲ 0.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(11 October 2024)

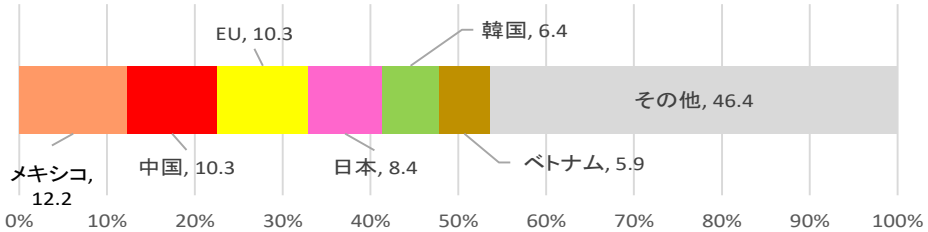
○ 2024/25 年度　世界のとうもろこしの生産量(1,217.2 百万トン)(単位：%)



○ 2024/25 年度　世界のとうもろこしの輸出量(190.5 百万トン)（単位：%）



○ 2024/25 年度　世界のとうもろこしの輸入量(183.8 百万トン)（単位：%）



（２）国別のとうもろこしの需給動向

＜　米国　＞　単収の引上げにより、生産量は前月から 0.5 百万トン上方修正

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、単収が前月予測から 0.02 トン/ヘクタール引き上げられたため、前月予測から 0.5 百万トン上方修正されたものの、収穫面積の減少（対前年度比 4.4%減）を受け、史上最高の前年度より 0.9%減の 386.2 百万トンと史上２番目に高い見通し。収穫面積の減少は、作付け時の大豆価格が、前年度に史上最高の豊作で価格が下落したとうもろこしに比べ大豆の作付けに有利であったため、多くの農家が大豆の作付けに切り替えたことによる。

USDA「Crop Progress」（2024.10.15）によれば、10 月 13 日現在、主要生産 18 州における成熟進捗率は 94%と、前年同期（93%）、過去５年平均（89%）を上回っている。収穫進捗率は 47%と、前年同期（42%）、過去５年平均（39%）を上回っている。作柄評価が「良～やや良」の比率は 64%であり、乾燥の影響を受けた前年同期（54%）を上回っている。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、エタノール用等消費の減少を受けて、前年度に比べ 0.1%減の 321.7 百万トンの見通し。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、現在の順調な輸出ペースを受けて前月予測から 0.6 百万トン上方修正され、米国産が価格競争力を有する見通しを受けて前年度より 1.4%増の 59.1 百万トンの見込み。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2024.10.11）によれば、米国産の輸出価格は、10 月 9 日現在、堅調な需要等を受けて前月から 5 ドル/トン上昇したものの、211 ドル/トンと、ブラジル産（213 ドル/トン）、アルゼンチン産（220 ドル/トン）を下回り、価格競争力を有している。なお、2024 年 9 月の輸出量は 373 万トンと、2023/24 年度の豊作を受けて前年同期の 298 万トンより 25%増。主な輸出先は、メキシコ 186 万トン（50.1%）、コロンビア 61 万トン（16.4%）、日本 53 万トン（14.2%）の順。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、供給量の引下げ及び輸出量の引上げを受けて、前月予測から 1.5 百万トン下方修正されたものの、高水準の生産量となる見通しを受けて、前年度より 13.5%増の 50.8 百万トンの見込み。期末在庫率は前年度より 1.6 ポイント上昇し 13.3%と、過去５年平均（10.7%）を上回っている。

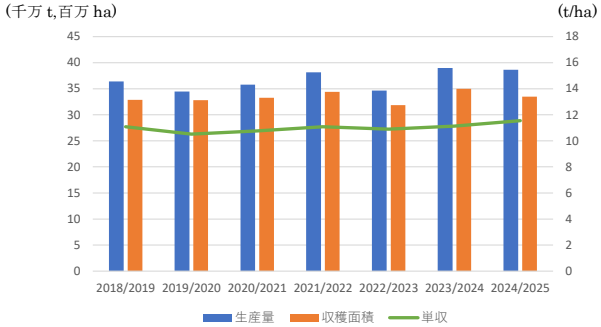
とうもろこし－米国

（単位：百万トン）

年　度	2022/23	2023/24（見込み）	2024/25（24年9月～25年8月） 予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生　産　量	346.7	389.7	386.2	0.5	▲ 0.9
消　費　量	305.9	322.0	321.7	－	▲ 0.1
うち飼料用	139.4	147.7	148.0	－	0.2
ｴﾀﾉｰﾙ用等	131.5	139.0	138.4	－	▲ 0.4
輸　出　量	42.2	58.2	59.1	0.6	1.4
輸　入　量	1.0	0.7	0.6	－	▲ 11.1
期末在庫量	34.6	44.7	50.8	▲ 1.5	13.5
期末在庫率	9.9%	11.8%	13.3%	▲ 0.4	1.6
（参考）					
収穫面積(百万ha)	31.85	35.01	33.47	－	▲ 4.4
単収(t/ha)	10.89	11.13	11.54	0.02	3.7

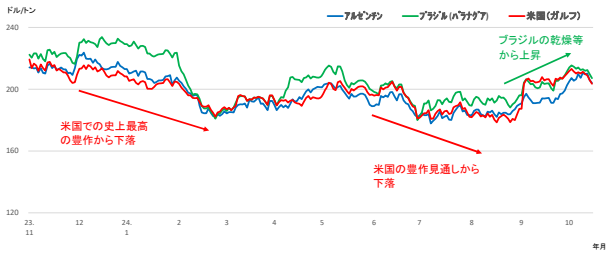
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、「World Agricultural Production」(11 October 2024)

図１　米国産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移



資料：USDA「PS&D」（2024.10.11）をもとに農林水産省にて作成

図２　米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格（FOB）の推移



資料：IGC のデータをもとに農林水産省にて作成

＜　ブラジル　＞　2024/25 年度の生産量は前年度から 4.1%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の増加を受けて前年度より 4.1%増の 127.0 百万トンと、史上２番目に高い生産量となる見通し。

ブラジル食料供給公社（CONAB）の月例報告（2024.10.15）によれば、2024/25 年度のとうもろこしの生産量は、前年度比 3.5%増の 119.7 百万トンの見込み。現在作付けが開始されている夏とうもろこし（大豆ーブラジルのクロップカレンダー（P.23）参照）は、生産コストの増加による大豆等の他作物への作付けのシフトによる作付面積の減少等を受けて、前年度比 1.1%減の 22.7 百万トンの見込み。一方、12 月末以降に作付けが開始される冬とうもろこしは、単収の増加等を受け、前年度比 4.6%増の 97.0 百万トンの見込み。ただし、９月の高温乾燥の影響で大豆の作付けが遅れており、大豆の収穫後に作付けされる冬とうもろこしの作付面積が減少する可能性がある。

USDA「Weekly Weather and Crop Bulletin」（2024.10.16）によれば、2024/25 年度の夏とうもろこしについて、10 月 7 日現在、南部のパラナ州の作付進捗率は 85%と前年同期並み。一方、10 月 10 日現在、南部のリオ・グランデ・ド・スール州の作付進捗率は、64%と、前年同期（65%）を下回っている。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、エタノール用消費の増加から、前年度より 1.2%増の 82.5 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、増産を受けて前年度より 6.5%増の 49.0 百万トンとなり、前年に引き続き米国に次ぐ世界第２位の輸出国となる見込み。

なお、2023/24 年度の輸出量は、直近の貿易データに基づき前月予測から 2.0 百万トン下方修正され、史上最高の豊作となった 2022/23 年度より 15.3%減の 46.0 百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024 年１～９月の輸出量は 24.4 百万トンで、史上最高の増産となった前年度より減産したことから前年同期比 28%減。内訳は、エジプト 3.0 百万トン（12.4%）、ベトナム 2.4 百万トン（9.8%）、韓国 2.3 百万トン（9.4%）の順。中国向け輸出量は 1.9 百万トンと、前年同期（7.9 百万トン）より 76%減と大幅に減少している。

とうもろこしーブラジル

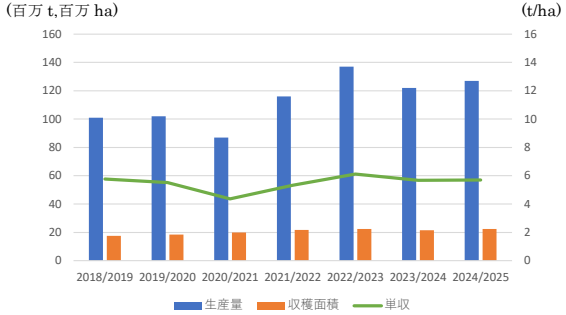
（大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが約８割、夏とうもろこしは約２割）

（単位：百万トン）

年　度	2022/23	2023/24（見込み）	2024/25（25年3月～26年2月）			
			予測値、（　）はCONAB		前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生　産　量	137.0	122.0	127.0	(119.7)	－	4.1
消　費　量	78.0	81.5	82.5	(87.0)	1.0	1.2
うち飼料用	61.5	63.0	63.0	－	－	－
輸　出　量	54.3	46.0	49.0	(34.0)	－	6.5
輸　入　量	1.3	1.3	1.5	(1.9)	－	15.4
期末在庫量	10.0	5.8	2.8	(5.0)	－	▲ 51.4
期末在庫率	7.6%	4.6%	2.2%	(4.2%)	▲ 0.02	▲ 2.4
（参考）						
収穫面積(百万ha)	22.40	21.50	22.30	(21.00)	－	3.7
単収(t/ha)	6.12	5.67	5.70	(5.70)	－	0.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、「World Agricultural Production」(11 October 2024)
CONAB「Graos」（15 October 2024）

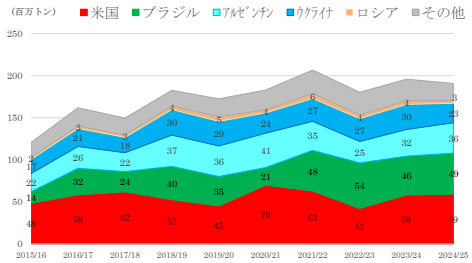
図１　ブラジル産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移



資料：USDA「PS&D」（2024.10.11）をもとに農林水産省にて作成

図２　世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移

（ブラジルは米国に次ぐ世界第２位の輸出国）



資料：USDA「PS&D」（2024.10.11）をもとに農林水産省にて作成

＜　アルゼンチン　＞　2024/25 年度の生産量は、前年度から 2.0%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 2.0%増、過去５年平均（49.7 百万トン）より 2.6%増の 51.0 百万トンの見込み。病害虫のヨコバイによる被害が生産者の作付け意欲に負の影響を及ぼしているほか、とうもろこし価格の下落により収益が見込める大豆に作付けがシフトすることが見込まれることから収穫面積が減少するものの、前年度に比べ単収が平年並みに戻り増加すると見込まれることによる。

ブエノスアイレス取引所週報（2024.10.17）によれば、10 月上旬の降雨を受けて、農業地域の大部分で作付作業のペースが上がり、作付進捗率は 24.3%と、前年同期（19.9%）より進んでいる。

USDA「Weekly Weather and Crop Bulletin」（2024.10.16）によれば、10 月上旬、干ばつが厳しかった西部地域に降雨があり、出芽に向けた土壌水分量は増加したとみられる。

USDA によれば、2023/24 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、干ばつにより減産した 2022/23 年度より 35.1%増の 50.0 百万トンの見込み。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、飼料用需要の引上げを受けて前月予測から 1.5 百万トン上方修正され、前年度から 0.3%増の 16.3 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、増産を受けて、前年度より 12.5%増の 36.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2024 年１～８月の輸出量は 2,449.3 万トンで、2022/23 年度の減産から回復したことを受け、前年同期（1,756.3 万トン）比で 39%増となった。内訳は、ベトナム 484.8 万トン（19.8%）、ペルー272.5 万トン（11.1%）、マレーシア 217.7 万トン（8.9%）の順。

昨年 12 月 10 日に右派のミレイ政権が誕生し、同 12 日に経済相は通貨ペソの公式レートを、現行の１ドル＝350 ペソから１ドル＝800 ペソに引き下げた。また、2021 年 12 月以降、国内向け穀物供給不足の回避と食料品価格の上昇を抑制するため、小麦及びとうもろこしに輸出上限数量を設定していたものの、2024 年５月に、市場に対する規制改革の一環として、小麦及びとうもろこしの輸出上限数量の撤廃を決定した。なお、アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約７％から 12%へ引き上げ、これを継続している。

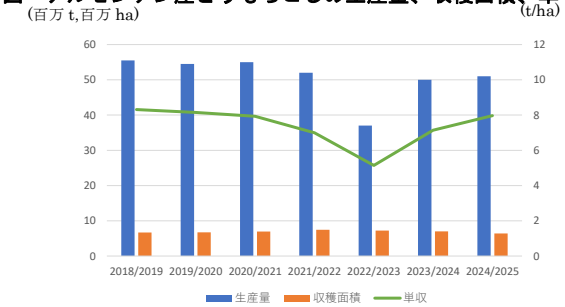
とうもろこしーアルゼンチン

（単位：百万トン）

年　度	2022/23	2023/24（見込み）	2024/25（25年3月～26年2月）			
			予測値、（　）はIGC		前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生　産　量	37.0	50.0	51.0	(54.0)	－	2.0
消　費　量	14.2	16.3	16.3	(20.5)	1.5	0.3
うち飼料用	10.0	12.0	12.0	(15.4)	1.7	－
輸　出　量	25.2	32.0	36.0	(35.0)	－	12.5
輸　入　量	0.0	0.0	0.0	(0.0)	－	▲ 50.0
期末在庫量	2.3	4.1	2.8	(1.6)	1.1	▲ 31.8
期末在庫率	5.9%	8.5%	5.3%	(2.9%)	1.9	▲ 3.1
（参考）						
収穫面積(百万ha)	7.20	7.00	6.40	(8.10)	－	▲ 8.6
単収(t/ha)	5.14	7.14	7.97	(7.07)	－	11.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、「World Agricultural Production」(11 October 2024)
IGC 「Grain Market Report」(19 September 2024)

図　アルゼンチン産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移



資料：USDA「PS&D」(2024.10.11）をもとに農林水産省にて作成

表　アルゼンチンのとうもろこし輸出量と輸出先国

（単位：万 t）

2024年８月		2024年１月～８月	
国名	輸出量	国名	輸出量
ベトナム	57.3	ベトナム	484.8
ペルー	45.4	ペルー	272.5
サウジアラビア	42.5	マレーシア	217.7
韓国	26.2	アルジェリア	212.8
チリ	24.2	韓国	200.1
その他	104.4	その他	1,061.4
計	300.0	計	2,449.3

資料：アルゼンチン国家統計局（INDEC）をもとに農林水産省にて作成

＜　ウクライナ　＞　2024/25 年度の生産量は、前年度から 19.4%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、収穫実績に基づき単収が引下げられたことを受けて、前月予測から 1.0 百万トン下方修正され、前年度より 19.4%減、侵攻前の史上最高の豊作となった 2021/22 年度から 37.8%減の 26.2 百万トンとなる見通し。収益性の高い油糧種子への作付けシフトを受けて収穫面積が減少（対前年度比 2.4%減）するとともに、７月以降の高温乾燥の継続を受けて豊作の前年度から単収も減少（対前年度比 17.4%減）することにより、減産となる見込み。

10 月 10 日現在、収穫進捗率は 49%と、前年同期（22%）より進んでいる。

USDA によれば、10 月上旬、ウクライナ西部で降雨があった一方、東部では降雨がなく干ばつが続いている。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、減産による供給減を受けて前年度より 4.7%減の 4.1 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、生産量の引下げを受けて前月予測から 1.0 百万トン下方修正され、これを受け、前年度より 22.3%減の 23.0 百万トンの見込み。

なお、2023/24 年度の輸出量は、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され、臨時回廊による輸出が増加していることを受けて前年度より 9.2%増の 29.6 百万トンの見込み。

ウクライナ政府等によれば、臨時回廊による輸出が本格化した 2023 年 10 月～2024 年９月の輸出量は 2,855 万トン（海上輸送、陸路等による全ての輸出が含まれる）と、前年同期比で 6.2%増。輸出先国は、スペイン 617.4 万トン（21.6%）、中国 461.9 万トン（16.2%）、エジプト 361.9 万トン（12.7%）、オランダ 277.7 万トン（9.7%）の順。2023/24 年度に干ばつとなったスペイン向けが最大となっている。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測から 0.1 百万トン下方修正され、減産による供給減から前年度より 56.8%減、侵攻前の５か年平均より 78%減の 0.6 百万トンの見込み。2024/25 年度の期末在庫率は、前年度から 2.0 ポイント減の 2.3%と、2000/01 年度以降で最低の水準となる見込み。

報道情報（2024.10.14）によれば、10 月上旬、黒海においてロシアが民間穀物輸送船２隻を攻撃した。黒海のウクライナ臨時回廊を航行する船舶の保険料は、10 月 14 日現在、前週から 1%上昇しており、価格上昇の主な要因はロシアによるオデッサ港周辺へのミサイル攻撃とみられる。

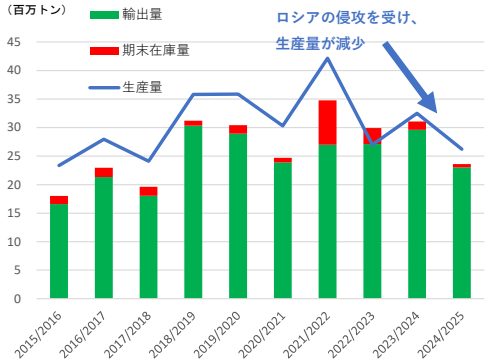
とうもろこし－ウクライナ

（単位：百万トン）

年　度	2022/23	2023/24（見込み）	2024/25（24年10月～25年9月）			
			予測値、（ ）はIGC		前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生　産　量	27.0	32.5	26.2	(26.0)	▲ 1.0	▲ 19.4
消　費　量	4.9	4.3	4.1	(4.7)	－	▲ 4.7
うち飼料用	4.0	3.3	3.1	(3.3)	－	▲ 6.1
輸　出　量	27.1	29.6	23.0	(21.6)	▲ 1.0	▲ 22.3
輸　入　量	0.0	0.0	0.0	(0.0)	－	－
期末在庫量	2.8	1.5	0.6	(0.7)	▲ 0.1	▲ 56.8
期末在庫率	8.7%	4.3%	2.3%	(2.6%)	▲ 0.3	▲ 2.0
（参考）						
収穫面積(百万ha)	4.05	4.20	4.10	(4.20)	－	▲ 2.4
単収(t/ha)	6.67	7.74	6.39	(6.19)	▲ 0.24	▲ 17.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、「World Agricultural Production」(11 October 2024)
IGC 「Grain Market Report」(19 September 2024)

図　とうもろこしの生産量、輸出量、期末在庫量の推移
（2024/25 年度の輸出量は、2017/18 年度以来の低水準の見通し）



資料：USDA「PS&D」（2024.10.11）をもとに農林水産省にて作成。

表　ウクライナ産とうもろこしの主な輸出先国

（単位：万 t）

2024年９月		2023年10月～2024年９月	
国名	輸出量	国名	輸出量
イタリア	14.2	スペイン	617.4
オランダ	6.9	中国	461.9
ギリシャ	4.0	エジプト	361.9
リビア	3.9	オランダ	277.7
トルコ	3.4	イタリア	253.0

資料：ウクライナ国家統計局のデータを基に農林水産省にて作成

＜　中国　＞　2024/25 年度の生産量は、前年度から 1.1%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の増加見込みを受けて、前年度より 1.1%増の 292.0 百万トンとなり、史上最高となる見込み。

全国農業気象月報（2024.10.3）によれば、９月は生育に適した気温となり、農地の土壌水分も十分であり、とうもろこしの成熟に適していたとみられる。９月末現在、主産地の黒龍江省では概ね乳熟期から成熟期にある。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用需要が増大することから、前年度より 2.0%増の 313.0 百万トンと史上最高の見込み。背景には国内の堅調な食肉需要があり、中国国家統計局（2024.1.17）によれば、2023 年の食肉生産量は 9,641 万トンと、前年比で 4.5%増。ただし、業界情報によれば、直近では中国の経済成長が鈍化し、豚肉の価格が低迷する中、中国政府は３月から国内の養豚飼育数の生産目標を減らす供給過剰対策を開始しており、飼料用需要の減少につながるとの見方もある。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、国内のデフレ圧力により国内価格が低下し、輸入意欲が低下するとの見通しを受けて前月予測から 2.0 百万トン下方修正され、前年度より 19.1%減の 19.0 百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、2024 年１～８月の輸入量は、国内産とうもろこし及び代替品の価格低下等を受けて前年同期比 15.6%減の 1,257.2 万トンの見込み。内訳は、ブラジル 576.5 万トン（45.9%）、ウクライナ 445.5 万トン（35.4%）、米国 203.9 万トン（16.2%）の順。

中国農業農村部「中国農業展望報告（2024－2033）」（2024.4）によれば、2023 年の国産とうもろこしの生産量は 2 億 8,884 万トンと前年から 4.8%増加したことから、2024 年のとうもろこし輸入量は 1,700 万トンと前年（2,713 万トン）から 37.3%減少すると予測。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2024 年８月号」によると、８月の国内価格は、2,440 元/トンと、新穀の供給を受けて前月（2,480 元/トン）から小幅に下落した。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、輸入量の引下げを受けて前月予測から 2.0 百万トン下方修正され、前年度より 1.0%減の 209.3 百万トンの見込み。

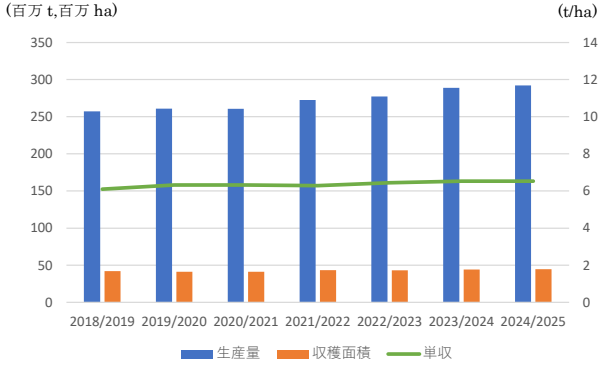
とうもろこし－中国

（単位：百万トン）

年　度	2022/23	2023/24（見込み）	2024/25（24年10月～25年9月） 予測値、（ ）はIGC		前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生　産　量	277.2	288.8	292.0	(296.0)	－	1.1
消　費　量	299.0	307.0	313.0	(316.7)	－	2.0
うち飼料用	218.0	225.0	231.0	(213.0)	－	2.7
輸　出　量	0.0	0.0	0.0	(0.1)	－	－
輸　入　量	18.7	23.5	19.0	(18.0)	▲ 2.0	▲ 19.1
期末在庫量	206.0	211.4	209.3	(177.6)	▲ 2.0	▲ 1.0
期末在庫率	68.9%	68.8%	66.9%	(56.1%)	▲ 0.6	▲ 2.0
（参考）						
収穫面積(百万ha)	43.07	44.22	44.70	(44.20)	－	1.1
単収(t/ha)	6.44	6.53	6.53	(6.70)	－	－

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、「World Agricultural Production」(11 October 2024)
IGC 「Grain Market Report」(19 September 2024)

図　中国産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移



資料：USDA「PS&D」（2024.10.11）をもとに農林水産省にて作成

表　中国のとうもろこし輸入量と輸入先国

（輸入量：万トン、シェア：%）

2024年１月～８月			2023年１月～12月			2022年１月～12月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	576.5	45.9	ブラジル	1,280.6	47.2	米国	1,486.5	72.1
ウクライナ	445.5	35.4	米国	714.4	26.3	ウクライナ	526.4	25.5
米国	203.9	16.2	ウクライナ	551.8	20.3	ミャンマー	19.4	0.9
ロシア	9.6	0.8	ブルガリア	73.9	2.7	ブルガリア	14.7	0.7
ブルガリア	7.6	0.6	ミャンマー	38.1	1.4	ロシア	9.5	0.5
南アフリカ共和国	5.6	0.4	ロシア	29.4	1.1	ラオス	5.1	0.2
その他	8.5	0.7	その他	24.5	0.9	その他	0.2	0.0
計	1,257.2	100	計	2,712.7	100	計	2,061.8	100

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

３　コメ

（１）　国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

＜USDA の見通し＞　　2024/25 年度

生産量　　**前年度比** ⇧　　**前月比** ⇧

・インド等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

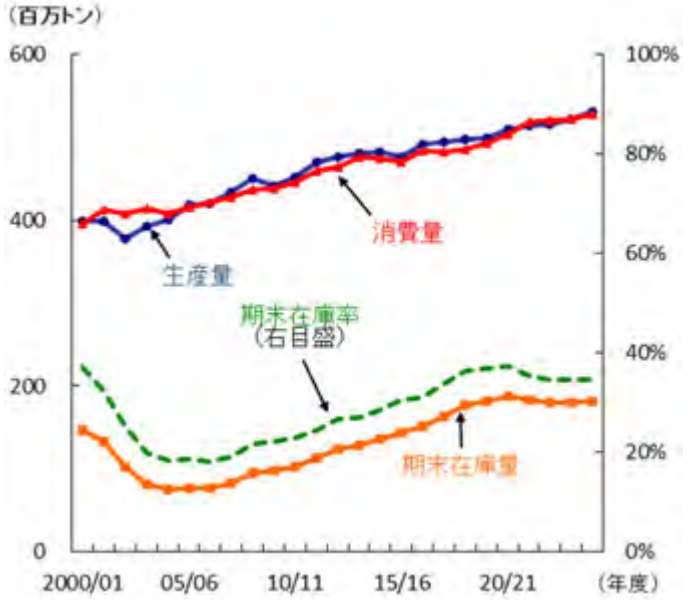
消費量　　**前年度比** ⇧　　**前月比** ⇧

・インド等で下方修正されたものの、ネパール、中国、マレーシア等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量　　**前年度比** ⇧　　**前月比** ⇧

・パキスタン等で下方修正されたものの、インド等で上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量　　**前年度比** ⇧　　**前月比** ⇧



資料：USDA「PS&D」(2024.10.11)をもとに農林水産省にて作成

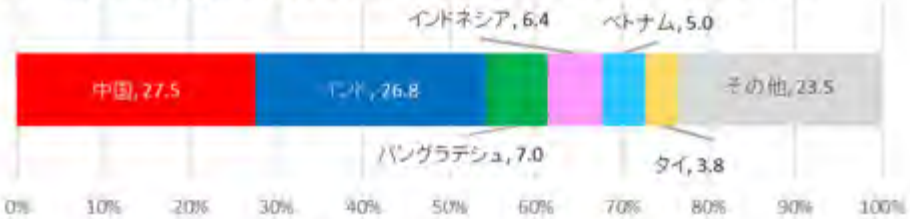
◎世界のコメ需給

（単位：百万精米トン）

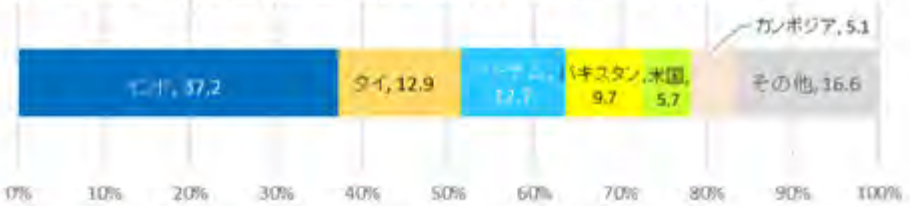
年　度	2022/23	2023/24（見込み）	2024/25		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生　産　量	516.0	521.5	530.4	3.1	1.7
消　費　量	520.0	521.3	528.1	0.6	1.3
輸　出　量	54.6	54.3	56.5	2.2	4.0
輸　入　量	56.6	51.7	52.9	1.9	2.4
期末在庫量	179.6	179.8	182.2	5.0	1.3
期末在庫率	34.5%	34.5%	34.5%	0.9	0.005

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(11 October 2024)

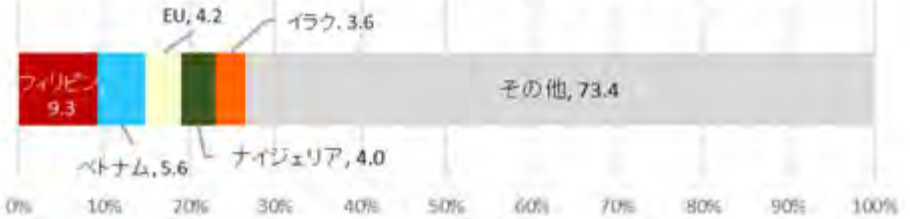
○　2024/25年度の世界のコメの生産量(530.4百万トン)(単位：%)



○　2024/25年度の世界のコメの輸出量(56.5百万トン)(単位：%)



○　2024/25年度の世界のコメの輸入量(52.9百万トン)(単位：%)



（２） 国別のコメの需給動向

＜ タイ ＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 0.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、20.1 百万トンと、前年度に比べ 0.5%増加する見込み。雨期にあたる９月は、全国的に降雨量が多く、コメの主要生産地である北部、東北部、中部でも例年同様 200 ミリ以上の降雨量があり、収穫面積の増加が見込まれることによる。

タイ農業協同組合省農業経済局「農業経済」（2024.9）によれば、2024/25 年度の雨季米（2024 年５月～10 月作付け）の収穫量は、良好な天候から前年度に比べ 0.8%増加の 27.0 百万トン（籾ベース）の見込み。単収は増加した一方、作付面積は、前年度の 995 万ヘクタールから 994 万ヘクタールにわずかに減少する見込み。コメの市場価格が高いことから作付面積を増加させる生産者がいる一方、天候への懸念から乾燥に強いキャッサバや市場価格が高騰しているサトウキビへの作付けのシフトも行われている。また 2023/24 年度の乾季米の収穫量（2024 年２月～10 月収穫）は、作付面積の減少に伴い、前年比９％減の 6.2 百万トン（籾ベース）と予測。

2024/25 年度は、降雨に恵まれ十分な灌漑用水が確保されるとみられることから前年度に比べ 15%増の 7.2 百万トン（籾ベース）の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、インドの輸出規制撤廃等（コメーインドの表　インドのコメ輸出規制（P.19）参照）を受け、前月予測から 0.2 百万トン下方修正され 7.3 百万トンと、前年度から 18.0%減少する見込み。

2023/24 年度（2024 年１月～12 月）の輸出量は、８月までの出荷・販売ペースが予想を上回ったことを踏まえ、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され 8.9 百万トンの見込み。

タイ関税局によれば、2024 年１～８月の輸出量は、前年同期比 24.0%増の 657.0 万トンとなった。このうち、政府備蓄の不足に対処するため輸入を拡大しているインドネシア向けの輸出量は、前年同期の 80.2 万トンから 35.0%増加し、108.5 万トンと輸出先国の中で最大となった。

コメータイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培

（単位：百万精米トン）

年　度	2022/23	2023/24（見込み）	2024/25（25年１月～25年12月） 予測値、()はIGC		前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生　産　量	20.9	20.0	20.1	(20.1)	－	0.5
消　費　量	12.5	12.5	12.6	(12.4)	－	0.8
輸　出　量	8.7	8.9	7.3	(8.2)	▲ 0.2	▲ 18.0
輸　入　量	0.1	0.1	0.1	(0.0)	－	－
期末在庫量	3.9	2.6	2.9	(2.9)	0.1	11.8
期末在庫率	18.1%	11.9%	14.3%	(14.2%)	0.6	2.4
（参考）						
収穫面積(百万ha)	11.07	10.65	10.70	(10.70)	－	0.5
単収(もみt/ha)	2.86	2.85	2.85	(1.88)	－	－

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（11 October 2024）
IGC 「Grain Market Report」（19 September 2024）（単収は精米t/ha）

表　タイの国別輸出量

（輸出量：万トン、シェア：%）

2023/24年度（2024年1月～8月）			2022/23年度（2023年1月～12月）			2021/22年度（2022年1月～12月）		
国　名	輸出量	シェア	国　名	輸出量	シェア	国　名	輸出量	シェア
インドネシア	108.5	16.5	インドネシア	141.1	16.1	イラク	160.0	20.8
イラク	75.4	11.5	南アフリカ	88.5	10.1	南アフリカ	77.5	10.1
米国	53.3	8.1	イラク	85.4	9.7	中国	75.2	9.8
南アフリカ	49.9	7.6	米国	70.6	8.1	米国	65.2	8.5
フィリピン	34.2	5.2	中国	47.2	5.4	日本	31.3	4.1
セネガル	28.7	4.4	フィリピン	42.0	4.8	セネガル	23.2	3.0
その他	307.0	46.7	その他	401.5	45.8	その他	338.6	43.9
計	657.0	100.0	計	876.3	100.0	計	771.0	100.0

資料：タイ関税局（2024.10）

＜　米国　＞　2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 0.7%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、7.0 百万トンと、前年度に比べ 0.7%増加し、2020/21 年度以降最大となる見込み。

同「Rice Outlook」（2024.10.16）によれば、種類別の生産量は、長粒種が 7.6 百万トン（籾ベース）と前年度を９％上回るものの、中・短粒種は、収穫面積の減少を受け 2.4 百万トン（籾ベース）と前年度を 21%下回る見込み。中・短粒種の主産地であるカリフォルニア州では、５月初旬の豪雨により作付けが遅延するとともに、この豪雨と価格の低下によりカリフォルニア産米の作付面積が減少することから、生産の減少に繋がると予測されている。

同「Crop Progress」（2024.10.15）によれば、10 月 13 日現在の主要生産６州の収穫進捗率は 91%と、前年同期（86%）及び過去５年平均（86%）を上回っている。南部の生産州では作付が早かったことから収穫が進展している一方、カリフォルニア州では平年通り９月上旬から収穫が開始された。

【貿易情報・その他】USDA「Rice Outlook」（2024.10.16）によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、期首在庫及び輸入増を受け、前年度に比べ 2.2%増の 5.1 百万トンと史上最高の見込み。2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、引き続きタイ及びインドを中心としたアジア諸国からの香り米の輸入が継続する見込みを受け、前年度に比べ 4.2%増の 1.5 百万トンと史上最高の見込み。

同「Grain:World Markets and Trade」（2024.10.11）によれば、インドの非バスマティ米の輸出規制撤廃等を受け、アジアのコメ輸出価格相場は大幅に値下がりをしたが、米国相場は、西半球（南北アメリカ大陸等）における需要増と農家における売り惜しみにより、11 ドル高の 750 ドル/トンとなった。

2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 3.2 百万トンと、輸出余力の増加から前年度に比べ 2.9%増加し、2016/17 年度以降で最高となる見込み。

同「Exports Sales Query System」（2024.9）によれば、2023/24 年度（2023 年 8 月～2024 年 7 月）の輸出量は 3.3 百万トンで、主な輸出先国は、メキシコ 90.6 万トン（27.7%）、ハイチ 34.5 万トン（10.5%）、日本 29.6 万トン（9.0%）の順。2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測から変更はなく、前年度に比べ 16.0%増加し、1.5 百万トンの見込み。

コメ－米国

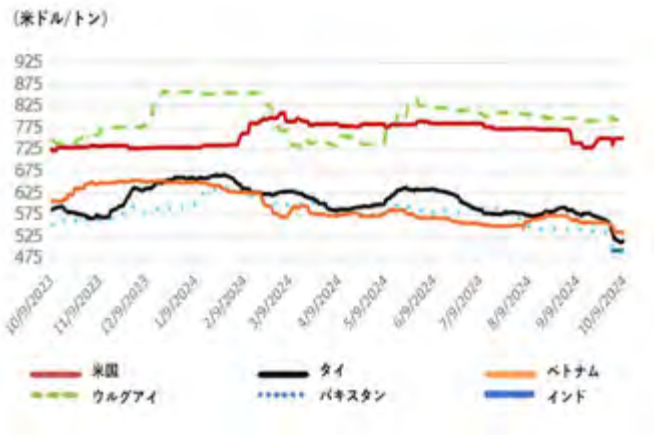
長粒種の生産量が 75%を占め、中・短粒種の生産量は 25%、その内カリフォルニア州での栽培が 20%

（単位：百万精米トン）

年　度	2022/23	2023/24（見込み）	2024/25（24年８月～25年７月）		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生　産　量	5.1	6.9	7.0	－	0.7
消　費　量	4.6	4.9	5.1	－	2.2
輸　出　量	2.1	3.1	3.2	－	2.9
輸　入　量	1.3	1.4	1.5	－	4.2
期末在庫量	1.0	1.3	1.5	－	16.0
期末在庫率	14.4%	15.5%	17.6%	－	2.0
（参考）					
収穫面積(百万ha)	0.88	1.16	1.17	－	0.9
単収(もみt/ha)	8.28	8.57	8.51	0.01	▲ 0.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、「World Agricultural Production」（11 October, 2024）

図　長粒米の FOB 輸出価格相場：過去 12 ヶ月



資料：USDA「Grain: World Markets and Trade」(2024.10.11)より

＜　中国　＞　2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 1.0%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、146.0 百万トンと、収穫面積の増加（前年度比 0.2%増）及び史上最高の単収（前年度比 0.7%増）から、前年度に比べ 1.0%増の見込み。政府の最低支持価格の上昇を受け、収穫面積はわずかに増加する見込み。

全国農業気象月報（2024.10.3）によれば、９月末まで、主産地である東北地区（黒龍江省、吉林省、遼寧省）では、一期作が成熟・収穫期であり、江淮地帯（長江・淮河の間）及び江南地区（江蘇省南部から浙江省北部）では出穂から乳熟期にあり、一部は成熟期に入った。

江南地区及び華南地区（福建省、海南省、広東省）の大部分では二期作の晩稲が出穂から乳熟期に入り、平年に近い状況である。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測から 0.2 百万トン上方修正され 145.3 百万トン。しかしながら、飼料用需要が比較的安価なとうもろこしへシフトすることや、高齢化の進展、若年層の食生活の西洋化等に伴い食用需要が減少することから、前年度比で 1.9%減少する見込み。なお、消費量は 2021/22 年度に史上最高の 156.4 百万トンに達したのち、3 年連続で減少している。

2024/25 年度の輸入量は、世界のコメ価格の下落を受けベトナム、ミャンマー、パキスタン、タイ、カンボジアといった伝統的なインディカ米の供給国からの輸入が増加するとの予測から、前月予測から 0.2 百万トン上方修正され、前年度比 11.1%増の 1.7 百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、2024 年１～８月の輸入量は 87.8 万トン（前年同期 56.1%減）で、輸入国別では、ミャンマー27.8 万トン（31.7％）、タイ 23.8 万トン（27.1%）、ベトナム 23.8 万トン（27.1%）、の順。

USDA によれば、「一帯一路」政策の賛同国を拡大する目的から、同政策の関係国に対しコメの輸出促進を図っているものの、軟調な需要に基づく輸出が継続すると予想されることから、2024/25 年度の輸出量は、前月予測から変更はないものの、前年度比 14.1%減の 1.4 百万トンの見込み。

2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測から変更はなく 104.0 百万トンと、前年度に比べ 1.0%増の見込み。

コメ－中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ（粳）米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは３割程度

（単位：百万精米トン）

年　度	2022/23	2023/24（見込み）	2024/25（24年７月～25年６月） 予測値、()はIGC		前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生　産　量	146.0	144.6	146.0	(145.0)	－	1.0
消　費　量	155.0	148.1	145.3	(145.2)	0.2	▲ 1.9
輸　出　量	1.7	1.6	1.4	(1.6)	－	▲ 14.1
輸　入　量	4.4	1.5	1.7	(2.1)	0.2	11.1
期末在庫量	106.6	103.0	104.0	(101.7)	－	1.0
期末在庫率	68.0%	68.8%	70.9%	(69.3%)	▲ 0.1	2.1
（参考）						
収穫面積(百万ha)	29.45	28.95	29.00	(29.00)	－	0.2
単収(もみt/ha)	7.08	7.14	7.19	(5.00)	－	0.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、「World Agricultural Production」（11 October 2024）
IGC 「Grain Market Report」（19 September 2024）（単収は精米t/ha）

図　中国の生産量、収穫面積、単収の推移（2004/05～2024/25 年度）

資料：USDA「PS&D」（2024.10.11）をもとに農林水産省にて作成

＜　インド　＞　2024/25 年度の輸出量は、前年度に比べ 40.0%増加する見込み

【生育･生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、収穫面積及び単収の増加により、前月予測から 3.0 百万トン上方修正され 142.0 百万トンと、前年度比で 3.0%増加、過去 5 年平均（129.1 百万トン）と比べ 10.0%増加し、史上最高の見込み。収穫面積は、主にインド東部におけるモンスーンの降水量が前年を上回り、カリフ米の収穫面積が予想を上回ったことから、前月予測から 0.5 百万ヘクタール増の 49.0 百万ヘクタールとなり、前年度に比べ 2.4%増加し史上最高となる見込み。

インド政府（2024.9.20）によると、綿花に比べて単収が高く、投入コストが低いコメに作付けがシフトしており、カリフ米の作付面積は前年度から 2 %増加し 41.35 百万ヘクタールとなる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測から 1.0 百万トン下方修正され 120.0 百万トンであるが、旺盛な国内需要が予測され、前年度比で 3.6%増。

国民の食料安全保障を確保するためにインド政府による公的食料配給制度が継続しており、より多くのコメが供給される見込み。政府は公的食料配給制度により市場からコメ等を調達し、低所得世帯（8.14 億人以上）に無償又は低価格で配給している。

USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、インド政府の輸出規制撤廃等を受け、前月予測から 3.0 百万トン上方修正され、前年度比 40.0%増の 21.0 百万トンの見込み。依然として世界第 1 位の輸出シェアを維持し、世界全体のコメ輸出総量の約 37.2%を占める。

2023/ 24 年度の輸出量は、前月予測から下方修正され 15.0 百万トンと、前年度比 25.9%減。

インド輸出入統計によれば、2023 年 10 月から 2024 年 7 月までの輸出量は 12.4 百万トンで、主な輸出先国は、サウジアラビア 119.8 万トン（9.6%）、ベナン 100.0 万トン（8.0%）、ギニア 80.8 万トン（6.5%）の順。サウジアラビア等中東諸国向けはバスマティ米の輸出が主である。

インドは、2022 年 9 月 9 日以降、非バスマティ米を中心に、様々な輸出規制を発動・強化してきたが、国内における史上最高の増産予測及び農家・輸出者からの要請を受け、2024 年 9 月 14 日に、2023 年 8 月 27 日より導入したバスマティ米の最低輸出価格の撤廃を発表した。また、9 月 27 日には、籾米、玄米、パーボイルド米の輸出関税を 20%から 10%への引き下げを発表。更に、9 月 28 日には、昨年 7 月から禁止していた非バスマティ米の輸出禁止措置を撤廃し、最低輸出価格を導入したものの、10 月 23 日に撤廃を発表した。インド食品公社（Food Cooperation India）によれば、9 月時点での期末在庫量は、32.31 百万トンと前年に比べ 38.7%増の見込み。

コメ－インド

雨季をカリフ､乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ･ラビ（小麦）の二毛作､南部はカリフ･ラビの二期作。主にインディカを栽培

（単位：百万精米トン）

年　度	2022/23	2023/24（見込み）	2024/25（24年10月～25年９月） 予測値、()はIGC		前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生　産　量	135.8	137.8	142.0	(139.0)	3.0	3.0
消　費　量	114.5	115.8	120.0	(118.5)	▲ 1.0	3.6
輸　出　量	20.3	15.0	21.0	(17.3)	3.0	40.0
輸　入　量	0.0	0.0	0.0	(0.0)	-	-
期末在庫量	35.0	42.0	43.0	(43.3)	4.0	2.4
期末在庫率	26.0%	32.1%	30.5%	(31.9%)	2.4	▲ 1.6
（参考）						
収穫面積(百万ha)	47.83	47.83	49.00	(48.50)	0.50	2.4
単収(もみt/ha)	4.26	4.32	4.35	(2.87)	0.05	0.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、「World Agricultural Production」（11 October 2024）
IGC 「Grain Market Report」（19 September 2024）（単収は精米t/ha）

表　インドのコメ輸出規制（2022 年9月9日～）

対象品目	措置内容	発動日
全ての種類のコメの籾（HS 1006 10）	輸出税（20%）→１０%	2024.9.27～
全ての種類のコメの玄米（HS 1006 20）	輸出税（20%）→１０%	2024.9.27～
バスマティ米・精米（HS1006 30 20）	関税：12,000ルピー/t（日本円で約2万円/t）	（法定税率）
	最低輸出価格導入（1,200ドル/トン→950ドル/トンに引き下げ（2023.10.26～））→最低輸出価格の撤廃	2024．9.14～
パーボイルド米・精米（HS1006 30 10）	輸出税（20%）→１０%	2024.9.27～
バスマティ米・パーボイルド米以外の精米（HS1006 30 90）	輸出禁止 →輸出撤廃	2024.9.28～（最低輸出価格も10.23に撤廃）
砕米（HS1006 40 00）	輸出禁止	2022.9.9～

※食料安全保障上の理由でインド政府が認める場合は輸出を許可
※有機米は本措置の対象外
資料：インド政府の公示等をもとに農林水産省にて作成

＜　ベトナム　＞　2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 0.5%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、26.5 百万トンと、前年度を 0.5%下回る見込み。2016/17 年以降、南部沿岸地域における海水の浸潤やメコン川の水流減少、肥料価格の高騰、高収益作物等（果物・野菜・養殖）へのシフト等から、作付面積は減少傾向にある。2023/24 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 26.6 百万トンと前年度に比べ 0.5 百万トン減少する見込み。

ベトナム農業農村開発省（MARD）によれば、9 月 7 日に台風 11 号「ヤギ」がベトナム北部に上陸し、その後も長期間にわたり大雨をもたらした。この影響で、洪水等による被害が発生し、生産量は前年より減少すると予測されている。紅河デルタ地域（北部）では、夏秋作（雨季米）は幼穂形成期から登熟期に達している。

アセアン食料安全保障情報システム（2024.10）によると、紅河デルタ地域（北部）では、台風 11 号「ヤギ」と台風 15 号「ソーリック」が 20 万ヘクタール以上に影響を与え、そのうちの 7.5 万ヘクタールが大きな被害を受けた。メコンデルタ地域（南部）では、夏秋作（雨季米）の収穫作業が終盤を迎えており、単収は 5.89 籾トン/ヘクタールと前年と同程度と予測されている。

【貿易情報・その他】USDA「Rice Outlook」（2024.10.16）によれば、2024/25 年度の輸出量は、世界第１位のコメ輸出国であるインドが非バスマティ米の輸出規制撤廃等したことによる、同国との競争激化が予想されることから、前月予測から 0.2 百万トン下方修正され、7.2 百万トンと、前年度に比べ 16.3%減少する見込み。ベトナム食品協会（VFA）（2024.9.5）によれば、ベトナム産５％破砕米の輸出価格は、タイやパキスタンなどの主要輸出国を上回っている。

同「Rice Outlook」（2024.10.16）によれば、ベトナム産５％破砕米（夏秋産）の価格相場は、９月 28 日のインドの非バスマティ米の輸出規制撤廃等を受け、９月 24 日に終わる週から 30 ドル下落し、10 月８日の週に 550 ドル/トンと、2023 年７月以来の安値となった。

ベトナム関税総局によれば、2024 年１～９月の輸出量は 695.8 万トンと、前年同期（641.9 万トン）に比べ 8.4%増加。主な輸出先国は、フィリピン 322.4 万トン（46.3%）、インドネシア 103.3 万トン（14.8%）、マレーシア 62.7 万トン（9.0%）、ガーナ 42.6 万トン（6.1%）の順。

コメ－ベトナム

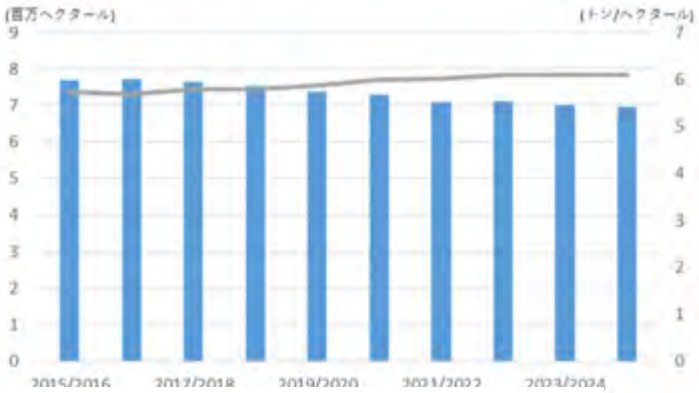
北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

（単位：百万精米トン）

年　度	2022/23	2023/24（見込み）	2024/25（25年１月～25年12月）		
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生　産　量	27.1	26.6	26.5　(28.6)	－	▲ 0.5
消　費　量	21.9	22.0	22.1　(22.4)	0.1	0.5
輸　出　量	8.2	8.6	7.2　(7.8)	▲ 0.2	▲ 16.3
輸　入　量	2.8	2.9	3.0　(2.2)	－	1.7
期末在庫量	2.6	1.6	1.7　(3.3)	0.1	9.7
期末在庫率	8.7%	5.1%	5.8%　(10.8%)	0.4	0.7
（参考）					
収穫面積(百万ha)	7.12	7.00	6.95　(7.20)	－	▲ 0.7
単収(もみt/ha)	6.10	6.09	6.10　(3.97)	－	0.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、「World Agricultural Production」（11 October 2024）
IGC 「Grain Market Report」（19 September 2024）（単収は精米t/ha）

図　ベトナムの収穫面積・単収の推移



資料：USDA「PS&D」（2024.10.11）をもとに農林水産省にて作成

Ⅱ　油糧種子　大豆

（１）国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

＜USDA の見通し＞　　2024/25 年度

生産量　　**前年度比** ⇧　**前月比** ⇩

・EU で上方修正されたものの、ウクライナ、米国等で下方修正され、前月予測から下方修正された。史上最高の見込み。

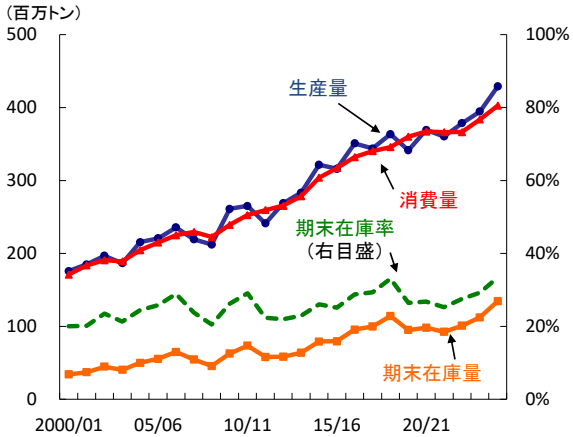
消費量　　**前年度比** ⇧　**前月比** ⇩

・中国等で上方修正されたものの、タイ、米国等で下方修正され、前月予測から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量　　**前年度比** ⇧　**前月比** ⇩

・ウクライナで下方修正され、前月予測から下方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量　　**前年度比** ⇧　**前月比** ⇧



資料：USDA「PS&D」（2024.10.11）をもとに農林水産省で作成

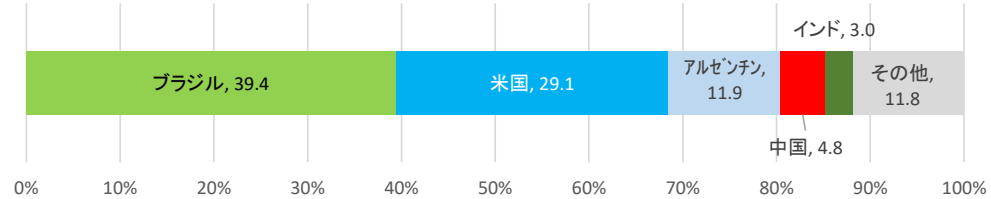
◎世界の大豆需給

（単位：百万トン）

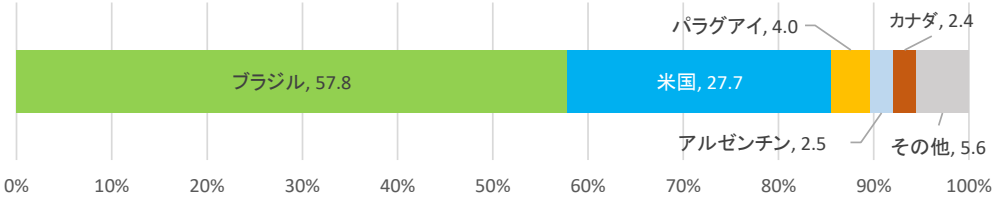
年　度	2022/23	2023/24（見込み）	2024/25		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生　産　量	378.7	394.7	428.9	▲ 0.3	8.7
消　費　量	366.4	383.8	402.7	▲ 0.3	4.9
うち搾油用	315.3	330.4	346.4	▲ 0.3	4.8
輸　出　量	171.8	176.9	181.5	▲ 0.1	2.6
輸　入　量	167.8	177.4	177.6	▲ 0.1	0.1
期末在庫量	100.9	112.4	134.7	0.1	19.8
期末在庫率	27.5%	29.3%	33.4%	0.04	4.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（11 October 2024）

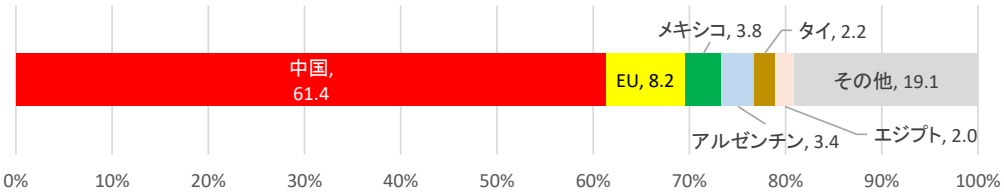
○　2024/25 年度の世界の大豆の生産量（428.9 百万トン）（単位：%）



○　2024/25 年度の世界の大豆の輸出量（181.5 百万トン）（単位：%）



○　2024/25 年度の世界の大豆の輸入量（177.6 百万トン）（単位：%）



（２）国別の大豆の需給動向

＜　米国　＞　2024/25 年度の生産量は前年度から 10.1%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、単収の引下げを受け、前月予測から 0.1 百万トン下方修正されたものの、収穫面積及び単収の増加を受け、前年度より 10.1%増の 124.7 百万トンと史上最高の見通し。作付け時の大豆価格が、前年度に史上最高の豊作となり価格が下落したとうもろこしに比べ大豆の作付けに有利であったため、多くの農家が大豆の作付けに切り替えたとみられる。

USDA「Crop Progress」（2024.10.7 及び 10.15）によれば、10 月 6 日現在、作柄評価が「良～やや良」の比率は 63%と、乾燥の影響を受けた前年同期（51%）を上回っている。10 月 13 日現在、主要生産 18 州における落葉進捗率は 95%と、前年同期（96%）を下回ったものの、過去５年平均（92%）を上回っている。収穫進捗率は 67%と、前年同期（57%）、過去５年平均（51%）を上回っている。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、搾油用以外の消費量がわずかに引下げられたことを受けて前月予測から 0.1 百万トン下方修正されたものの、バイオ燃料等の需要増による搾油の収益改善の見通しから、前年度より 5.4%増の 69.1 百万トンで史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、世界全体の搾油用需要が増加する見通しから、前年度より 9.1%増の 50.4 百万トンの見込み。

「OIL WORLD Monthly」(2024.10.18)によれば、2024/25 年度、パーム油等の油糧種子の減産による価格上昇に伴い、相対的に安価な大豆の需要が高まっている。

USDA「Oilseeds: World Markets and Trade」（2024.10.11）によれば、米国の大豆価格は、10 月 9 日現在、前月並みの 417 ドル/トンと、乾燥が懸念される南米のブラジル産（434 ドル/トン）及びアルゼンチン産（420 ドル/トン）を下回っている。なお、USDA によれば、2024 年 9 月の輸出量は 290 万トンと、世界的な大豆需要の増加を受けて前年同期の 231 万トンより 26%増。内訳は中国 100 万トン（34.6%）、メキシコ 36 万トン（12.3%）、ドイツ 9 万トン（9.2%）の順となっている。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、増産を受けて前年度より 60.8%増の 15.0 百万トンとなる見込み。期末在庫率は 12.5%と、過去５年平均（8.0%）を上回り、2019/20 年度以来５年ぶりに 10%台まで回復する見通し。

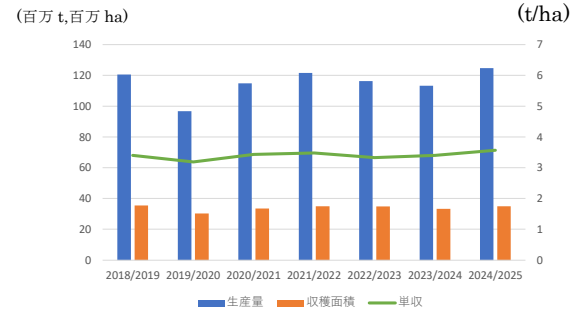
大豆－米国

（単位：百万トン）

年　度	2022/23	2023/24（見込み）	2024/25（24年９月～25年８月） 予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生　産　量	116.2	113.3	124.7	▲ 0.1	10.1
消　費　量	63.3	65.6	69.1	▲ 0.1	5.4
うち搾油用	60.2	62.2	66.0	－	6.0
輸　出　量	53.9	46.1	50.4	－	9.1
輸　入　量	0.7	0.6	0.4	－	▲ 28.1
期末在庫量	7.2	9.3	15.0	－	60.8
期末在庫率	6.1%	8.3%	12.5%	0.01	4.2
（参考）					
収穫面積(百万ha)	34.87	33.29	34.91	－	4.9
単収(t/ha)	3.33	3.40	3.57	▲ 0.01	5.0

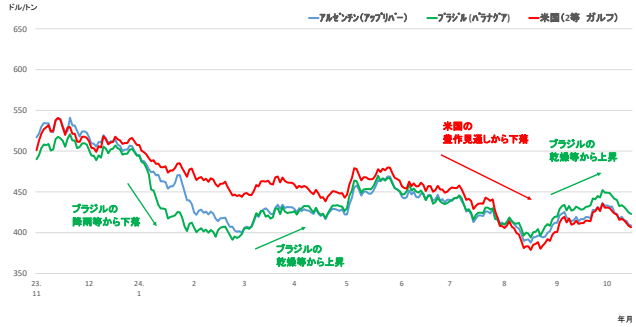
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、「World Agricultural Production」（11 October 2024）

図１　米国産大豆の生産量、収穫面積、単収の推



資料：USDA「PS&D」（2024.10.11）をもとに農林水産省にて作成

図２　米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格（FOB）の推移



資料：IGC のデータをもとに農林水産省にて作成

＜　ブラジル　＞　2024/25 年度の生産量は前年度から 10.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積が史上最高となる見込みを受け、前年度より 10.5%増の 169.0 百万トンと史上最高の見通し。

CONAB の月例報告（2024.10.15）によれば、2024/25 年度の生産量は、とうもろこしから収益性が高い大豆に作付けがシフトすること等による作付面積の増加を受けて前年度より 12.7%増の 166.1 百万トンの見通し。10 月 6 日時点の作付進捗率は 4.2%と、9 月下旬の高温乾燥による降雨の遅れを受けて、前年同期の 10.1%を下回っている。

USDA「Weekly Weather and Crop Bulletin」（2024.10.16）によれば、10 月 11 日現在、主要生産州のマット・グロッソ州において、作付進捗率は 9 %と、前年同期（35%）、過去 5 年平均（24%）を下回っている。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の前年度から搾油用需要が減少することを受けて前年度より 0.8%減の 58.1 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、中国からの引き続き堅調な需要等により、前年度から 0.8%増の 105.0 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024 年 1 ～ 9 月の輸出量は 89.5 百万トンで、前年同期（87.2 百万トン）に比べ 2.6%増となっており、中国向け輸出が昨年に引き続き堅調に推移していることが要因。輸出先は、中国 65.5 百万トン（73.1%）、スペイン 3.9 百万トン（4.4%）、タイ 2.6 百万トン（2.9%）の順。

2023 年 6 月、北部のマラニョン州イタキ港と南部のサンパウロ州サントス港を結ぶ南北鉄道が開通した。さらに、マット・グロッソ州から南部サントス港まで輸送する鉄道の拡張工事も行われており、これらのアクセス改善が輸出のボトルネックを回避する一助になることが期待されている。

報道情報によれば、9 月中旬現在、南米のアマゾン川流域では、降雨不足と干ばつにより河川の水位が記録的な水準に低下し、一部では輸出向け穀物を運ぶはしけの航行に支障をきたしている。

ブラジルでは、従来からの主要な穀物輸送手段であるトラック輸送に加え、近年では鉄道輸送網が整備されつつある一方で、アマゾン川の水運も主要な輸送手段の一つとなっているため、アマゾン川の水位低下が穀物輸出へ及ぼす影響を注視する必要がある。

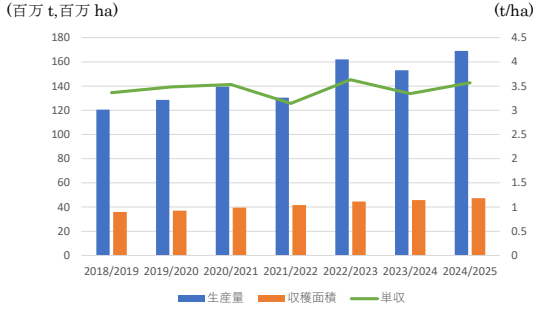
大豆－ブラジル

（単位：百万トン）

年　度	2022/23	2023/24（見込み）	2024/25（24年10月～25年9月） 予測値、（）はCONAB		前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生　産　量	162.0	153.0	169.0	(166.1)	－	10.5
消　費　量	57.2	58.6	58.1	(60.2)	－	▲ 0.8
うち搾油用	53.4	54.7	54.0	－	－	▲ 1.3
輸　出　量	95.5	104.2	105.0	(105.5)	－	0.8
輸　入　量	0.2	0.9	0.2	(0.5)	－	▲ 82.8
期末在庫量	36.8	28.0	34.0	(4.2)	0.1	21.6
期末在庫率	24.1%	17.2%	20.9%	(2.5%)	0.06	3.7
（参考）						
収穫面積(百万ha)	44.60	45.80	47.30	(47.33)	－	3.3
単収(t/ha)	3.63	3.34	3.57	(3.51)	－	6.9

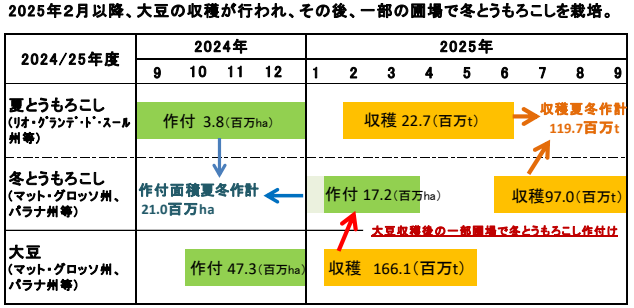
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、「World Agricultural Production」（11 October 2024）
CONAB「Graos」（15 October 2024）

図１　ブラジル産大豆の生産量、収穫面積、単収の推移



資料：USDA「PS&D」（2024.10.11）をもとに農林水産省にて作成

図２　ブラジルのクロップカレンダー（中部から南部）



資料：CONAB「Graos」（2024.10.15）をもとに農林水産省にて作成

＜　カナダ　＞　2024/25 年度の生産量は前年度から 3.1%増加する見込み（AAFC）

【生育・生産状況】AAFC「Outlook for Principal Field Crops」（2024.10.21）によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度（7.0 百万トン）から 3.1%増の 7.2 百万トンの見込み。大豆価格が低下しているものの、大豆粕の需要と輸出は堅調であり、生産量は微増するとみられる。土壌水分量は現時点で十分とみられる。なお、USDA によれば、10 月上旬、温暖な天候が広がり、作物の成熟に好影響を与えている。

カナダ統計局「Model-based principal field crop estimates , August 2024」（2024.9.16）によれば、州別には、米国コーンベルトに隣接する最大生産州オンタリオ州の生産量は、前年度に比べ 6.9%増の 4.3 百万トンの見込み。とうもろこし等の他作物より価格が有利な大豆の作付けを増加させたため収穫面積が増加することが主な要因とみられる。隣接するマニトバ州、ケベック州でも生産されており、マニトバ州では前年度より減産する一方、ケベック州では前年度より増産する見込み。

主要生産州の各州報告によれば、オンタリオ州では、10 月上旬現在、概ね完熟期を迎えており、収穫進捗率は、州内の地域により異なるが、60%以上で、収穫が完了した地域もある。マニトバ州では、10 月上旬、収穫進捗率は 70%と前年同期（69%）より進んでいる。

【需要状況】AAFC によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、搾油用等の需要の増加により前年度（2.2 百万トン）から 10.5%増の 2.5 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測から 0.2 百万トン上方修正され、供給増を受けて前年度（4.9 百万トン）より 6.1%増の 5.2 百万トンと史上２番目の高水準となる見込み。

カナダ穀物委員会によれば、2023/24 年度（2023 年８月～2024 年７月）の輸出量は 347.5 万トンで、前年同期（311.6 万トン）を上回っている。国別では、中国 143.9 万トン（41.4%）、アルジェリア 62.6 万トン（18.0%）、イラン 54.6 万トン（15.7%）、オランダ 18.5 万トン（5.3%）の順となっている。

AAFC によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、2023/24 年度の消費量の引下げを受けて前月予測から 0.1 百万トン上方修正され、前年度並みの 0.6 百万トンの見込み。

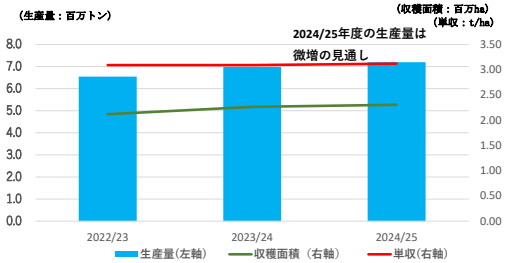
大豆－カナダ

（単位：百万トン）

年　度	2022/23	2023/24（見込み）	2024/25（24年8月～25年7月） 予測値、()はAAFC		前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生　産　量	6.5	7.0	7.2	(7.2)	－	3.1
消　費　量	2.7	2.5	2.9	(2.5)	－	12.3
うち搾油用	1.8	1.7	1.8	(1.9)	－	2.6
輸　出　量	4.2	4.8	4.3	(5.2)	－	▲ 11.3
輸　入　量	0.5	0.3	0.4	(0.5)	－	4.5
期末在庫量	0.4	0.3	0.7	(0.6)	－	132.0
期末在庫率	5.3%	4.1%	9.8%	(7.2%)	－	5.7
（参考）						
収穫面積(百万ha)	2.12	2.26	2.30	(2.31)	－	1.8
単収(t/ha)	3.09	3.09	3.13	(3.12)	－	1.3

資料：USDA「PS&D」
「World Agricultural Production」（11 October 2024）
AAFC「Outlook for Principal Field Crops」（21 October 2024）

図　カナダの直近３か年の生産量等の推移



資料：AAFC「Outlook for Principal Field Crops」（2024.10.21）をもとに農林水産省にて作成

表　カナダ産大豆の輸出量と輸出先国

(輸出量：万 t、シェア：%)

2024年８月			2023/24年度（2023年８月～2024年７月）		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
アルジェリア	4.4	66.7	中国	143.9	41.4
米国	1.2	18.2	アルジェリア	62.6	18.0
ベルギー	0.9	13.6	イラン	54.6	15.7
			オランダ	18.5	5.3
			その他	68.0	19.6
計	6.6	100.0	計	347.5	100.0

資料：カナダ穀物委員会のデータをもとに農林水産省にて作成

＜　中国　＞　2024/25 年度の生産量は、前年度から 0.7%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積が増加（対前年度比 0.3%増）するものの、単収が平年並みに戻り減少（対前年度比 1.0%減）すると見込まれることから、前年度より 0.7%減の 20.7 百万トンとなるも、史上２番目に高い見込み。

全国農業気象月報（2024.10.3）によれば、９月は生育に適した気温となり、農地の土壌水分も十分であり、大豆の登熟や成熟に適しているとみられる。９月末、主産地の黒龍江省では成熟期を迎えている。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され、国内の畜産物の需要増を受けて大豆粕の需要が増加することから、前年度より 4.2%増の 126.9 百万トンと史上最高の見込み。ただし、業界情報によれば、直近では中国の経済成長が鈍化し、豚肉の価格が低迷する中、中国政府は３月から国内の養豚飼育数の生産目標を減らす供給過剰対策を開始しており、飼料用需要の減少につながるとの見方もある。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の前年度より 2.7%減の 109.0 百万トンとなるも、引き続き高水準を維持する見込み。

USDA によれば、2023/24 年度の輸入量は、直近の貿易データを受けて、前月予測から 0.5 百万トン上方修正され、前年度より 7.2%増の 112.0 百万トンとなる見込み。なお、中国海関統計によれば、2024 年１～８月の輸入量は、前年同期より 2.8%増の 7,048.1 万トン。内訳は、ブラジル 5,379.5 万トン（76.3%）、米国 1,283.5 万トン（18.2%）、アルゼンチン 162.0 万トン（2.3%）の順。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2024 年８月号」によると、８月の輸入価格（山東省の輸入大豆価格）は、前月（3,900 元/トン）から小幅に下落し、3,760 元/トン。８月の国内価格は、4,880 元/トンと前月（4,900 元/トン）から小幅に下落したものの、前年度の大豆が備蓄から販売され、価格は安定している。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、2023/24 年度の輸入量の引上げにより前月予測から 0.3 百万トン上方修正され、生産量と輸入量の合計が消費量を上回っていることを受けて、前年度より 6.2%増の 46.0 百万トンと史上最高の見込み。2024/25 年度の期末在庫率は、前年度より 0.7 ポイント増の 36.2%となる見込み。

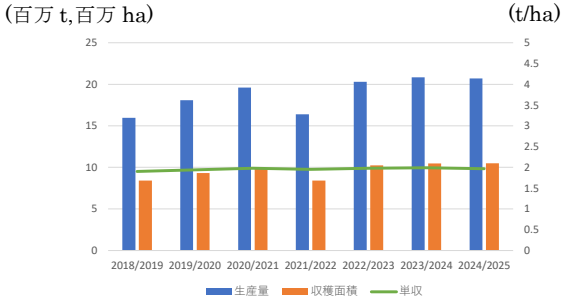
大豆－中国

（単位：百万トン）

年　度	2022/23	2023/24（見込み）	2024/25（24年10月～25年9月） 予測値、()はIGC		前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生　産　量	20.3	20.8	20.7	(20.1)	－	▲ 0.7
消　費　量	117.5	121.8	126.9	(127.8)	0.1	4.2
うち搾油用	96.0	99.0	103.0	(105.8)	－	4.0
輸　出　量	0.1	0.1	0.1	(0.1)	－	42.9
輸　入　量	104.5	112.0	109.0	(108.0)	－	▲ 2.7
期末在庫量	32.3	43.3	46.0	(44.9)	0.3	6.2
期末在庫率	27.5%	35.5%	36.2%	(35.1%)	0.2	0.7
（参考）						
収穫面積(百万ha)	10.24	10.47	10.50	(8.40)	－	0.3
単収(t/ha)	1.98	1.99	1.97	(1.95)	－	▲ 1.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、「World Agricultural Production」（11 October 2024）
IGC「Grain Market Report」(19 September 2024)

図　中国産大豆の生産量、収穫面積、単収の推移



資料：USDA「PS&D」(2024.10.11）をもとに農林水産省にて作成

表　中国の大豆輸入量と輸入先国

（輸入量：万トン、シェア：%）

2024年１月～８月			2023年１月～12月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	5,379.5	76.3	ブラジル	6,993.0	70.7
米国	1,283.5	18.2	米国	2,374.3	24.0
アルゼンチン	162.0	2.3	アルゼンチン	199.2	2.0
カナダ	99.5	1.4	カナダ	146.6	1.5
ロシア	50.3	0.7	ロシア	129.3	1.3
ウルグアイ	45.4	0.6	南アフリカ	14.7	0.1
その他	27.8	0.5	その他	38.6	0.4
計	7,048.1	100	計	9,895.7	100

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

＜　アルゼンチン　＞　2024/25 年度の生産量は、前年度から 6.0%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、本年 11 月以降作付けが開始される 2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、大豆の収益性が高まることで農家がとうもろこしから大豆へ作付けをシフトさせる見通しを受けて、前年度から 6.0%増の 51.0 百万トンの見込み。

なお、2023/24 年度の生産量は、干ばつとなった前年度より 92.4%増の 48.1 百万トンの見込み。 1 月から 2 月初旬にかけて高温乾燥型の天候が続いたものの、その後の降雨により作柄が改善した。

ブエノスアイレス取引所週報（2024.7.3）によれば、 7 月 3 日現在、大豆の収穫は完了。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、増産に伴い搾油量が増加することから、前年度比 10.8%増の 47.6 百万トンの見込み。なお、アルゼンチンは、丸大豆の搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、世界有数の大豆油及び大豆粕の輸出国である。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、国内生産量の増加に伴い輸入需要が減少することから、前年度より 18.9%減の 6.0 百万トンの見込み。

2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、世界全体の供給量の引上げによる競争の激化を受けて前年度より 11.8%減の 4.5 百万トンとなるも、中国向け輸出が引き続き堅調に推移する見通し。

なお、2024 年 1 ～ 8 月の輸出量は、前年度の干ばつによる減産からの回復を受けて 405.9 万トンで前年同期（90.7 万トン）の約 4 倍。輸出先は、中国 365.3 万トン（90.0%）、米国 9.8 万トン（2.4%）、チリ 4.0 万トン（1.0%）の順で、 4 月以降、中国向け輸出が急増している。

2023 年 12 月 10 日に右派のミレイ政権が誕生した。同 12 日に経済相は通貨ペソの公式レートを現行の 1 ドル＝350 ペソから 50%以上切り下げ、 1 ドル＝800 ペソにした。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、輸出税を設定している。2021 年 1 月以降、輸出税を大豆に最大 33%、大豆油及び大豆粕に 31%を設定。ミレイ政権においても、輸出税は引き続き維持されている。

「OIL WORLD Weekly」（2024.8.23）によれば、アルゼンチンのとうもろこし及び大豆の主要輸送経路であるパラナ川の水位が低下しており、主要輸出港ロサリオ港への河川輸送に問題が生じている。

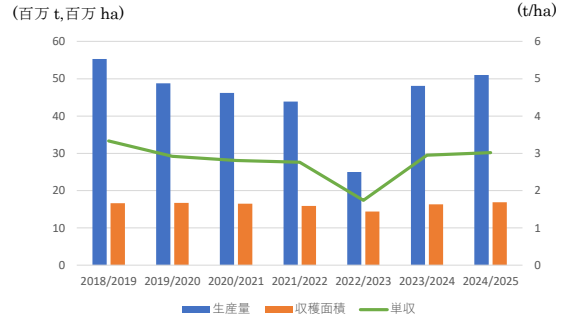
大豆－アルゼンチン

（単位：百万トン）

年　度	2022/23	2023/24（見込み）	2024/25（24年10月～25年9月） 予測値、()はIGC		前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生　産　量	25.0	48.1	51.0	(51.5)	－	6.0
消　費　量	36.6	43.0	47.6	(48.8)	－	10.8
うち搾油用	30.3	35.7	40.0	(42.3)	－	12.0
輸　出　量	4.2	5.1	4.5	(5.7)	－	▲ 11.8
輸　入　量	9.1	7.4	6.0	(5.3)	－	▲ 18.9
期末在庫量	17.0	24.5	29.4	(11.5)	0.1	20.0
期末在庫率	41.7%	50.9%	56.3%	(21.1%)	0.2	5.4
（参考）						
収穫面積(百万ha)	14.40	16.30	16.90	(15.87)	－	3.7
単収(t/ha)	1.74	2.95	3.02	(3.25)	－	2.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、「World Agricultural Production」（11 October 2024）
IGC 「Grain Market Report」（19 September 2024）

図　アルゼンチン産大豆の生産量、収穫面積、単収の推移



資料：USDA「PS&D」（2024.10.11）をもとに農林水産省にて作成

表　アルゼンチンの大豆輸出量と輸出先国

（単位：万 t）

2024年８月		2024年１月～８月	
国名	輸出量	国名	輸出量
中国	41.6	中国	365.3
米国	5.4	米国	9.8
ペルー	2.1	チリ	4.0
チリ	0.2	ペルー	2.1
その他	3.1	その他	24.7
計	52.2	計	405.9

資料：アルゼンチン国家統計局（INDEC）をもとに農林水産省にて作成

(参考1)本レポートに使用されている各国の市場年度について (2024/25年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	24年6月～25年5月	24年9月～25年8月	24年8月～25年7月	24年9月～25年8月
カナダ	24年8月～25年7月			24年8月～25年7月
豪州	24年10月～25年9月		25年3月～25年2月	
EU	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		
中国	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月
ロシア	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		24年9月～25年8月
ウクライナ	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		
ブラジル		25年3月～26年2月	25年4月～26年3月	24年10月～25年9月
アルゼンチン	24年12月～25年11月	25年3月～26年2月		24年10月～25年9月
タイ			25年1月～12月	
インド	24年4月～25年3月		24年10月～25年9月	
ベトナム			25年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
例えば、2024/25年度は、米国の小麦では2024年6月～2025年5月、ブラジルのとうもろこしでは2025年3月～2026年2月です。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads (「Reference Data」タブを参照)

(参考2)単位換算表

1 容積→重量

1 Bushel (ブッシェル) (穀物により異なる)	0.027216	メトリックトン	小麦、大豆	米国等
	0.021772	メトリックトン	大麦	
	0.025401	メトリックトン	とうもろこし	
	0.014515	メトリックトン	オーツ	
1 CWT(百ポンド)	0.045359	メトリックトン	コメ	米国等

2 面積

1Acre(エーカー)	0.40469	ヘクタール	米国等
1rai(ライ)	0.16	ヘクタール	タイ
1 亩(ムー)	0.0667	ヘクタール	中国

3 その他

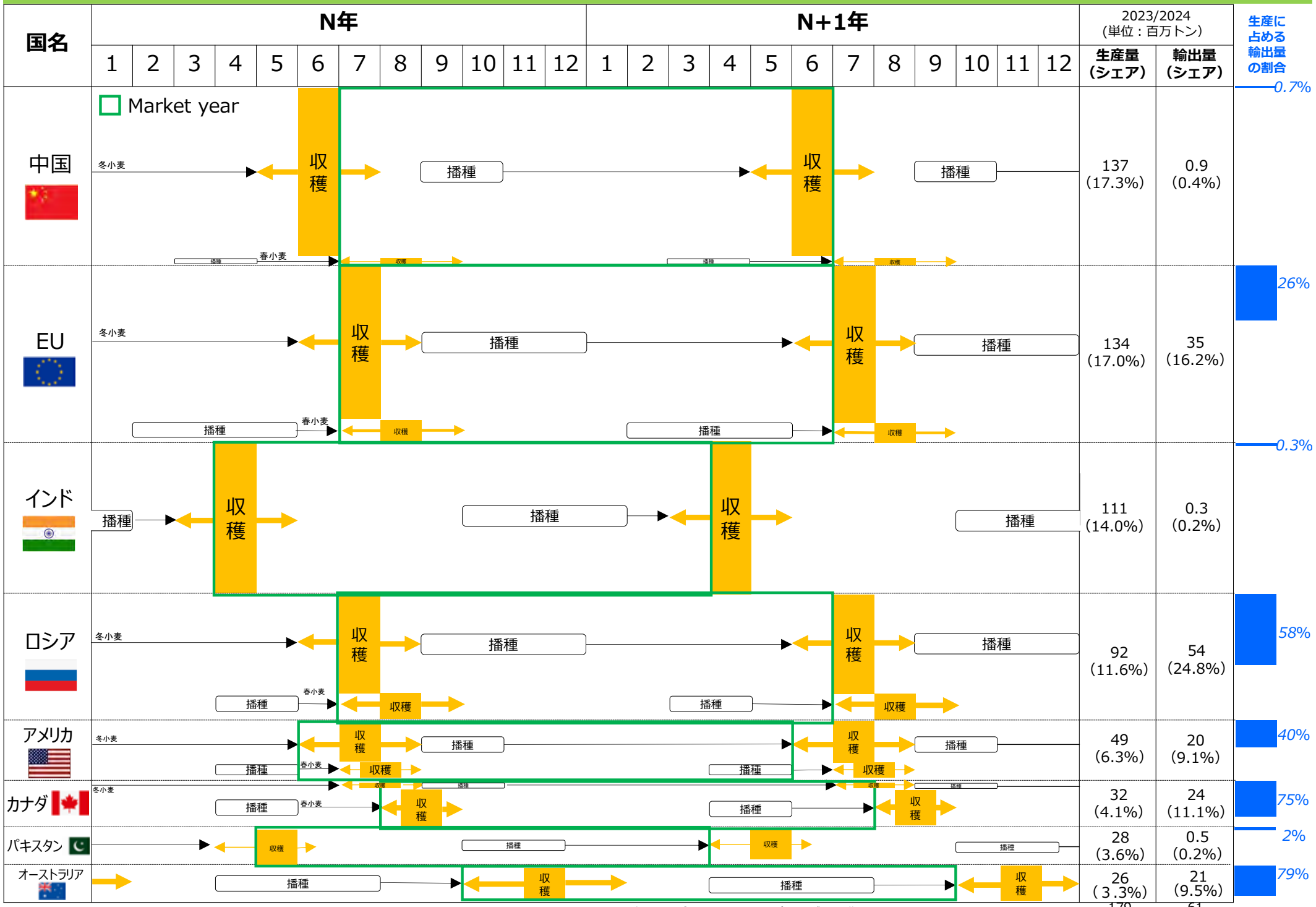
1ガロン	4.536	リットル	英国
1ガロン	3.785	リットル	米国
1LAKH(ラーク)	10万	位取り	インド
1斤	500g	重量	中国

華氏→摂氏 : ℃=(° F−32)÷1.8

（参考3）各国のクロップカレンダー一覧（主要品目毎）

主要生産国のクロップカレンダー（小麦）

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

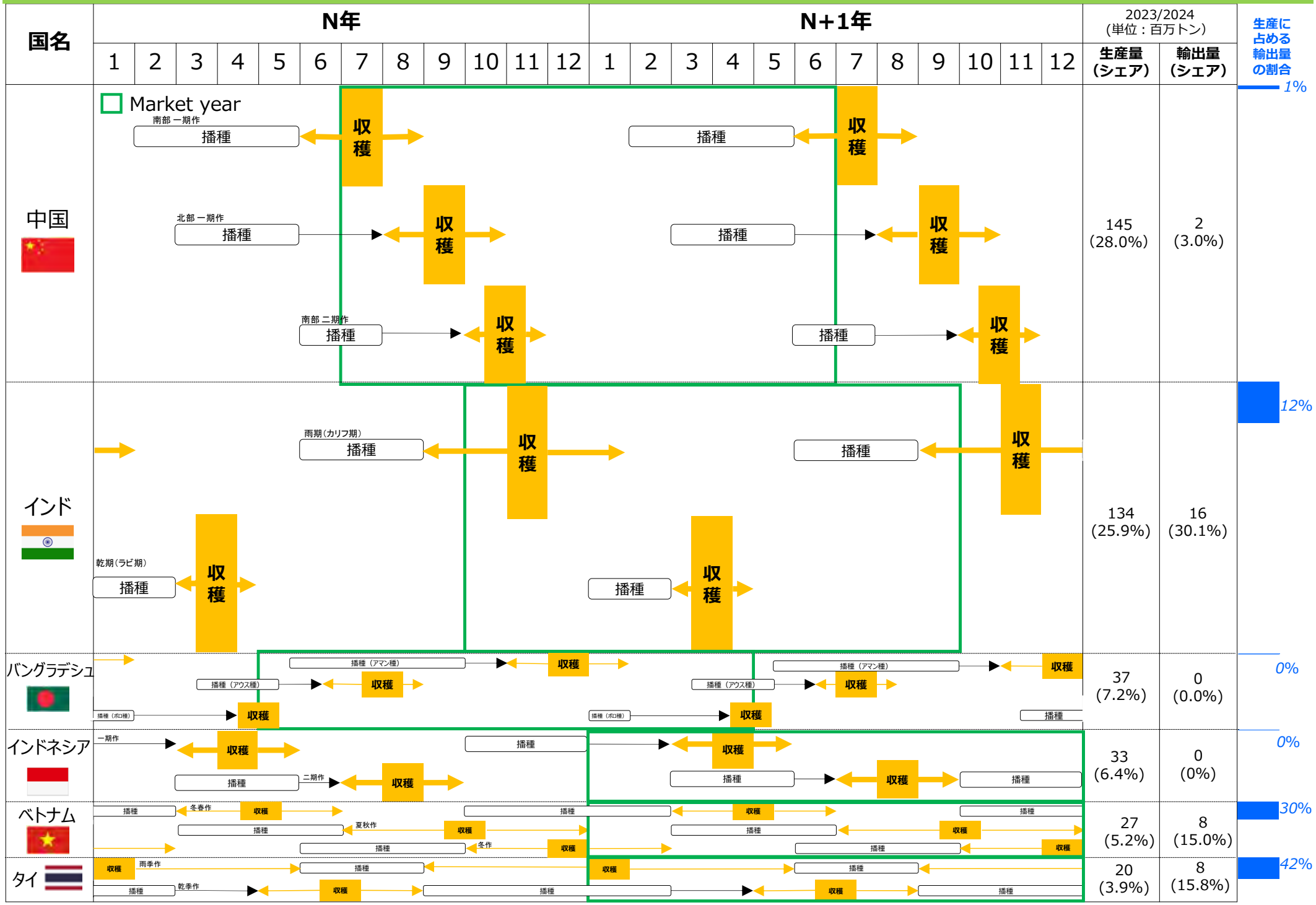


資料：AMIS「Supply and demand balances manual」,USDA 「PS&D」（2024.5）

注：シェアが3%以上の国のクロップカレンダーを記載している。
冬小麦と春小麦の収穫量の割合は便宜的にデュラム小麦は全て春小麦としている。

主要生産国のクロップカレンダー（米）

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

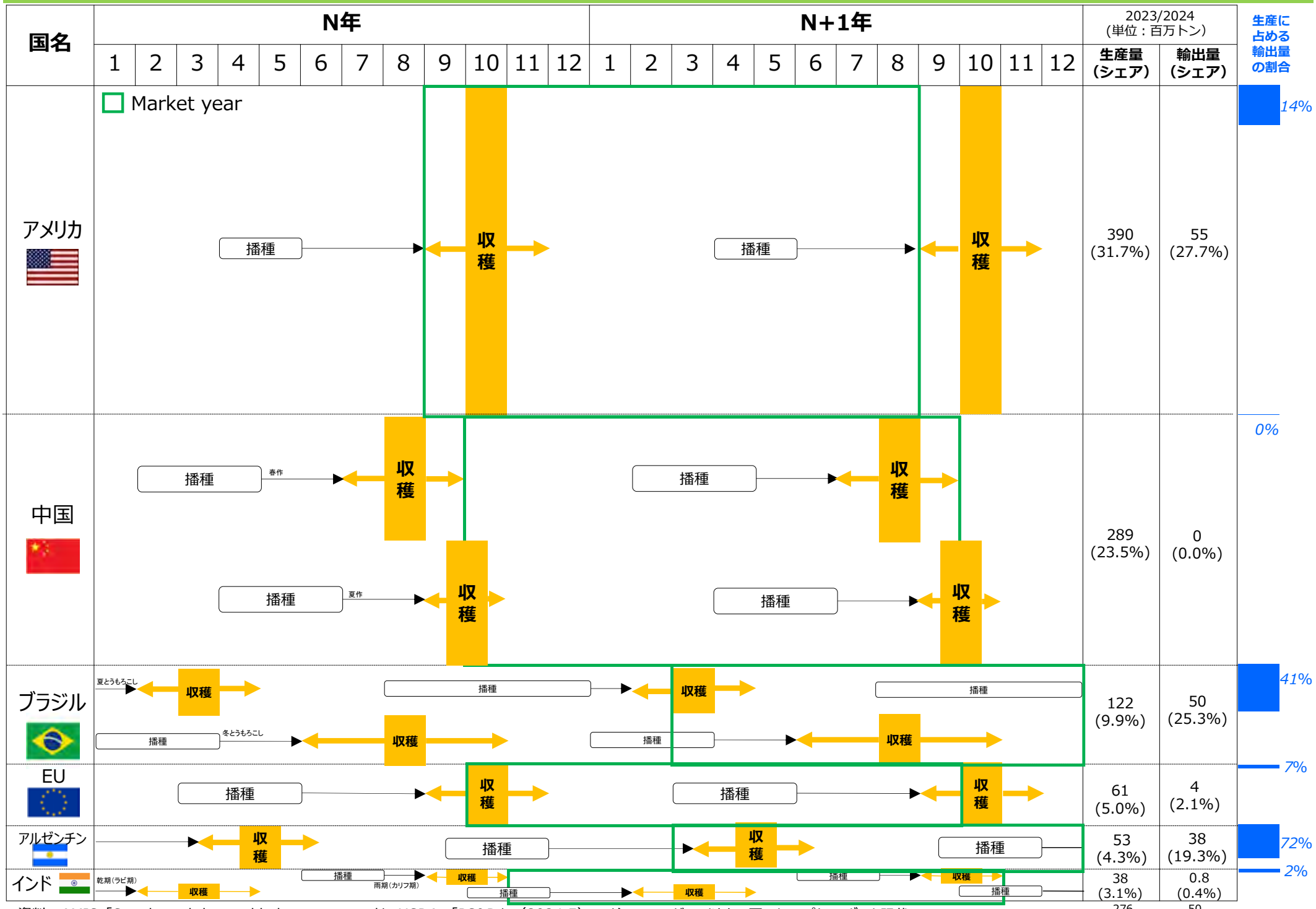


資料：AMIS「Supply and demand balances manual」,USDA 「PS&D」（2024.5）注：シェアが3%以上の国のクロップカレンダーを記載している。

その他：122 (23.5%) 19 (36.1%)

主要生産国のクロップカレンダー（とうもろこし）

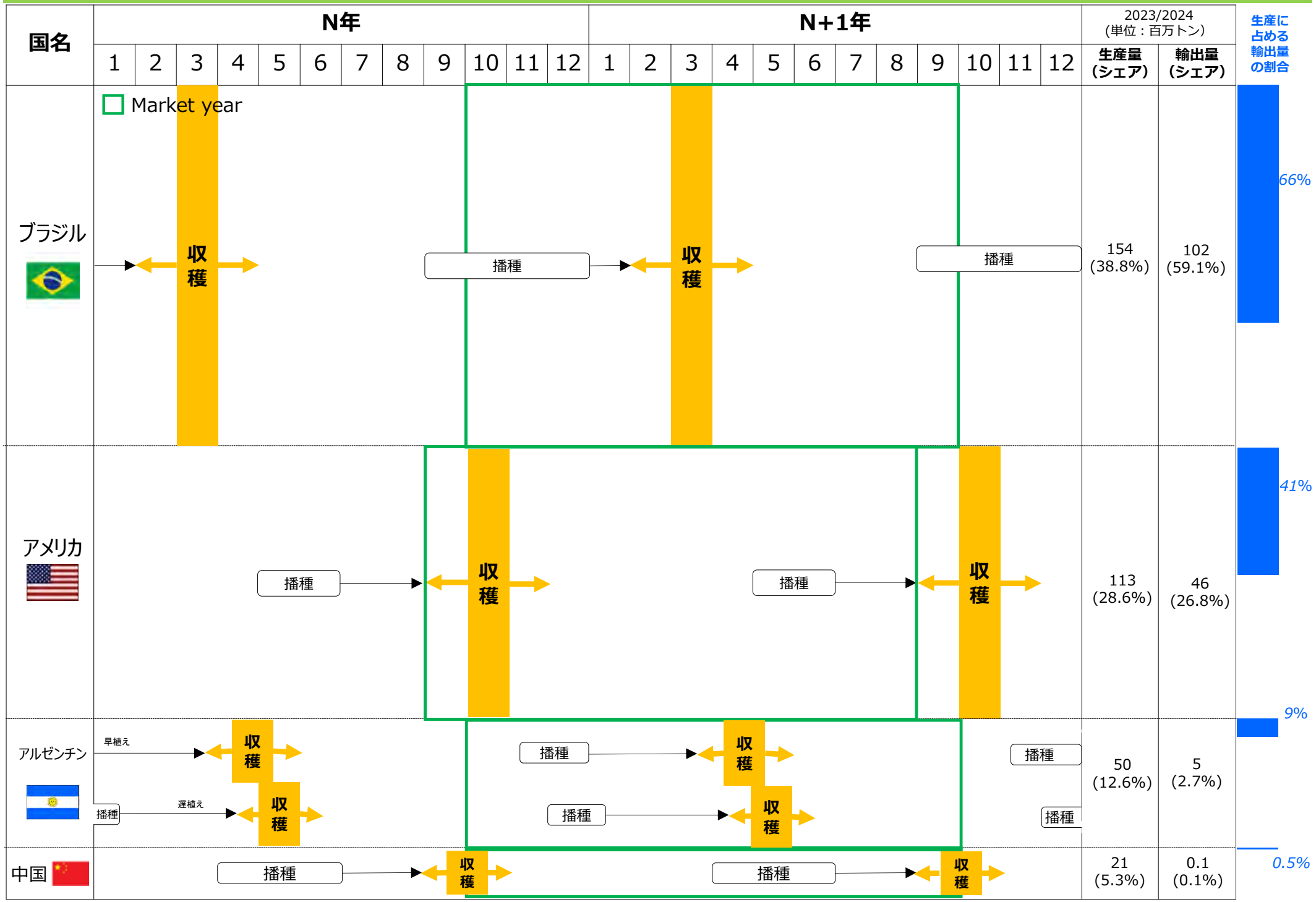
※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料：AMIS「Supply and demand balances manual」,USDA 「PS&D」（2024.5）　注：シェアが3%以上の国のクロップカレンダーを記載している。

主要生産国のクロップカレンダー（大豆）

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

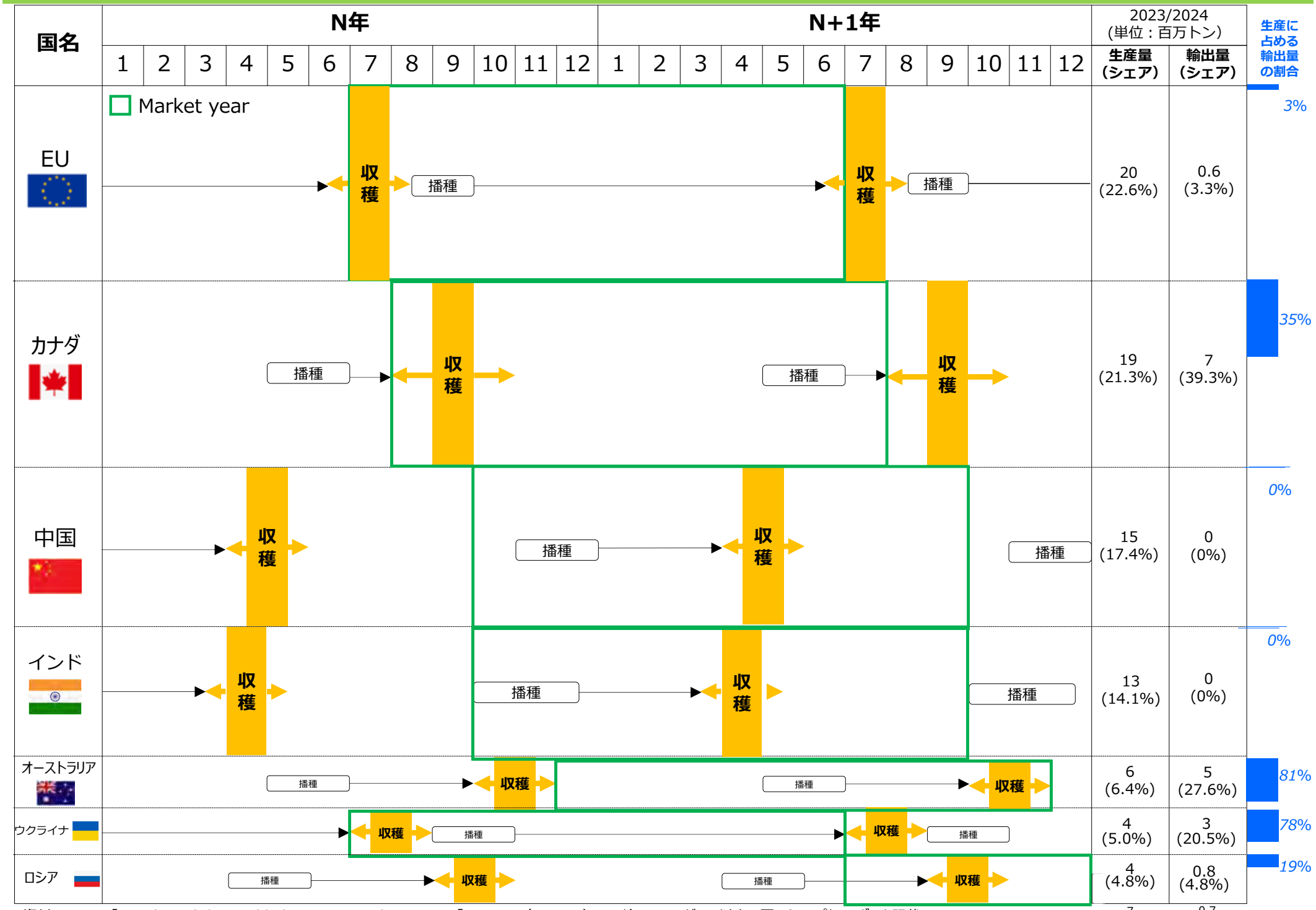


国名	2023/2024（単位：百万トン） 生産量（シェア）	輸出量（シェア）	生産に占める輸出量の割合
ブラジル	154 (38.8%)	102 (59.1%)	66%
アメリカ	113 (28.6%)	46 (26.8%)	41%
アルゼンチン	50 (12.6%)	5 (2.7%)	9%
中国	21 (5.3%)	0.1 (0.1%)	0.5%
その他：	59 (14.8%)	20 (11.3%)	

資料：AMIS「Supply and demand balances manual」,USDA 「PS&D」（2024.5） 注：シェアが3%以上の国のクロップカレンダーを記載している。

主要生産国のクロップカレンダー（菜種）

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料：AMIS「Supply and demand balances manual」,USDA 「PS&D」（2024.5）　注：シェアが3%以上の国のクロップカレンダーを記載している

【利用上の注意】

食料安全保障月報は、国際穀物需給に関し、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC 等）の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

○　本月報に記載のない情報は以下を参照願います。

（１）　農林水産省の情報

ア　我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

・食料需給表：http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/

・食品の価格動向：http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/kouri/index.html

・米に関するマンスリーレポート：http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html

イ　中・長期見通しに関する情報

・食料需給見通し（農林水産政策研究所）：http://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html

（２）　農林水産関係機関の情報（ALIC の情報サイト）：https://www.alic.go.jp/

・砂糖、でんぷん：https://www.alic.go.jp/sugar/index.html

・野菜：https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html

・畜産物：https://www.alic.go.jp/livestock/index.html

（３）　その他海外の機関（英語及び各国語となります）

ア　国際機関

・国連食糧農業機関（FAO）：https://www.fao.org/home/en

・国際穀物理事会（IGC）：https://www.igc.int/en/default.aspx

・経済協力開発機構（OECD）（農業分野）：https://www.oecd.org/agriculture/

・農業市場情報システム（AMIS）：http://www.amis-outlook.org/

イ　各国の農業関係機関（代表的なものです）

・米国農務省（USDA）：https://www.usda.gov/

・ブラジル食料供給公社（CONAB）：https://www.conab.gov.br/

・カナダ農務農産食品省（AAFC）：https://agriculture.canada.ca/en/sector/crops/reports-statistics

・豪州農業資源経済科学局（ABARES）：http://www.agriculture.gov.au/abares

○　食料安全保障月報で使用している統計数値は、主に米国農務省が 2024 年 10 月中旬までに発表した情報を引用しています。（最新年度 2024/25 年度です）

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/
「Grain：World Markets and Trade」
https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade
「Oilseeds：World Markets and Trade」
https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade
「World Agricultural Production」
https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production
「PS&D」
https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery
など

○　**データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されます**ので留意してください。

○　資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。

○　資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。

○　市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads
（注：同サイトの「Reference Data」を参照）

○　期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差になります。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。

○　本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「食料安全保障月報」）を併記願います。

なお、生産見通し等の予測は、各国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

ロシアが占領しているウクライナのクリミアの生産量については、米国農務省はウクライナとして集計しています。

○　本月報の電子版は下記アドレスでご覧になれます。
農林水産省　食料安全保障月報
http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

○　本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先　　農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室
ＴＥＬ：０３−６７４４−２３６８（直通）

「食料安全保障月報」に関するアンケート

いつも食料安全保障月報（以下、「月報」）を御愛読いただきありがとうございます。
今後のより良い月報の作成に生かすため、皆様の声を是非お聞かせください。

１　あなたの所属を教えてください。（選択式）
商社、食品・飼料メーカー、食品卸・小売業、調査会社、自治体、大学・研究機関、大学生・高校生、その他

２　あなたの所属する会社・組織が所在する地域を教えてください。（選択式）
北海道、東北、関東（東京以外）、東京、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄、海外その他

３　月報をどこで知りましたか。（選択式）
口コミ、以前から（海外食料需給レポート時代から）、検索エンジン、農水省 HP、書籍、その他

４　月報を書籍で知った場合、その書名が分かれば教えてください。

５　月報で一番関心／参考にしている項目は何ですか。（複数選択可）
概要編（今月の主な動き（穀物等の国際価格の動向）、今月の注目情報、今月のコラム、その他）
品目別需給編（小麦、とうもろこし、コメ、油糧種子（大豆））
特別分析トピック

６　今後重点的に取り上げてほしいテーマは何ですか。（自由記載）
テーマ例：世界的な異常気象（干ばつ、洪水など）の穀物生産への影響
地域別の穀物需給動向（米国、南米、豪州、東南アジア等）
ウクライナ情勢の生産・貿易への影響
中国の需要・輸入動向
世界的な人口増加による食料需要・貿易への影響
中長期（10 年先）、超長期（30 年先）的な食料需給見通し

７　今後月報に期待することはありますか。（自由記載）

ご回答は以下 URL または右の QR コードよりアクセス願います。

https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/kanbo/anpo/anpo_geppou_ankeeto.html